令和7年度森町議会予算等審査特別委員会（第2日目）

令和7年3月7日（金曜日）

開議 午前10時00分

延会 午後 4時48分

○議事日程

- 1 議案第24号 森町国民健康保険税条例の一部を改正する条例制定について
- 議案第25号 ホタテ未利用資源リサイクル施設条例の一部を改正する条例制定について
- 議案第26号 森町水産系副産物再資源化施設条例の一部を改正する条例制定について
- 議案第27号 森町副町長の定数の特例に関する条例制定について
- 議案第28号 森町過疎地域持続的発展市町村計画の変更について
- 議案第29号 公の施設に係る指定管理者の指定について（森町ふれあいの森）
- 議案第30号 令和7年度森町一般会計予算
- 議案第31号 令和7年度森町国民健康保険特別会計予算
- 議案第32号 令和7年度森町後期高齢者医療特別会計予算
- 議案第33号 令和7年度森町介護保険事業特別会計予算
- 議案第34号 令和7年度森町介護サービス事業特別会計予算
- 議案第35号 令和7年度森町港湾整備事業特別会計予算
- 議案第36号 令和7年度森町ホタテ未利用資源リサイクル事業特別会計予算
- 議案第37号 令和7年度森町国民健康保険病院事業会計予算
- 議案第38号 令和7年度森町水道事業会計予算
- 議案第39号 令和7年度森町公共下水道事業会計予算

○出席委員（12名）

1番 伊藤 昇 君	2番 河野 文彦 君
3番 高橋 邦雄 君	4番 河野 淳 君
5番 山田 誠 君	6番 野口 周治 君
7番 斉藤 優香 君	8番 千葉 圭一 君
9番 佐々木 修 君	10番 加藤 進 君
12番 東 隆一 君	13番 松田 兼宗 君

○欠席委員（0名）

◎開議の宣告

○委員長（伊藤 昇君） おはようございます。ただいまの出席委員数は12名です。定数に達していますので、委員会が成立しました。

これより予算等審査特別委員会を開会します。

◎議案第24号ないし議案第39号

○委員長（伊藤 昇君） まず、予算書86、87ページ中段からの款2総務費、項1総務管理費、目11諸費をお開き願います。併せて資料ナンバー24をご覧ください。よろしいですか。質疑ありますでしょうか。

○委員（河野文彦君） 大変すばらしいテーマで私もこのフォーラム楽しみにしたいなと思っているのですが、1つ気になったのがこの説明資料のタイトルの話なのですが、自律協生社会は町長が公約に掲げて町長が目指しているわけですが、このタイトルを見ると何か武蔵野美大と日本総研が目指している。何かこういうフォーラムを実際に開催される時に、どういうタイトルになってくるか分からないのですが、よその団体が目指している自律協生ではなくて、我が町の森町の町長が目指している自律協生社会だということをご前置に出してほしいなと思ったものですから、それだけです。そうしてほしいのですが、いかがですか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、自律協生というテーマを掲げて共同研究しています日本総研と武蔵野美術大学、こちらが2022年度から3年間の共同研究として行われている事業でございます。そういった中で全国で3か所その研究拠点として北海道森町と、あと和歌山県の田辺市、そして熊本の天草市、この3か所のフィールドワークをするということで2022年度から入っております、森町にも。毎月1回教授と、あと日本総研の井上さんが入ってきておまして、そういった中で自律協生というのをどうやってこの森町で目指していくのかというところで1次産業の人たちとヒアリングをずっとこの間しております。ですので、森町での自律協生というのは、1次産業の人たちのヒアリングを通じてこれを3年間の総括として20周年記念事業として行いますので、これまでの実績を踏まえた上でのフォーラムとなるということで、これは森町の自律協生だと言えらるフォーラムになると思います。

以上です。

○委員（松田兼宗君） そもそも自律協生、今の説明聞いていると全くよく分からない、何をやろうとしているのか。そして、具体的に今回この写真も含めてそうなのですが、写真が何なのかも分からない。そして、廃倉庫を含めて活用するということの書き方しているのと、次の第3次森町総合振興計画やまちづくりに反映するというようなこと書いているのだけれども、その中身が全然見えてこないのです。廃倉庫活用して書いているから、空き家対策とか空き店舗対策を考えているのですかというふうに思ってみたりするので、

そもそも一番先に掲げている自律協生についての説明が今の口頭だけでは全然見えてこない。そして、20周年の記念事業としてやるのだみたいなこと言っているけれども、どこそれコマーシャルしていますか。今4月から動き始めるというのに、町民自体が全く分かっていないのではないですか、これ。その辺どうお考えなのかお知らせください。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、倉庫の関係なのですけれども、倉庫は砂原にある漁師さんが所有しています廃倉庫になっています。建物自体は、築50年以上の森町の歴史をかたどる上でもすごく大事な施設ではないかなというふうに思っていますので、20周年を記念として古い建物を簡単に風化させるのではなくて、こういうものが森町の歴史としてあるのだよということを含めてここを展示会場としたいということを考えているということです。

あと、具体的にお話ししますと、シンポジウムというのを公民館で開かせていただいて、プラスこれまで森町の歴史をパネルとかで表現しますので、その部分を砂原の倉庫のところでやりたいというふうに考えている内容になっております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） だから、最初のテーマとして掲げている日本総研と武蔵美の共同で何かやっているって話は、ここに書いているから分かるけれども、町民が自律協生の社会を目指すのだったら自律協生って何なのかを理解できないのではないですか。町長を目指しているところだという言い方が一方であるのだけれども、それが見えてこない以上、町民にどうやってこれ浸透させていくのですか。その仕組みも一切つくっていないで、突然これを掲げてやって町民が理解しているのですか。今回いろんなフォーラムとかやった中でそれを第3次森町総合開発計画に反映させるというようなこと書いているのです。そこまでも目指していながら、なぜそのPRの分が全くなされてないのか。そして、先ほどの答えの中で私聞きましたよね。空き店舗とか空き家対策も含めて考えているのですかというふうに捉えられるわけです。その辺いかがなのですか、含めて。

○農林課参事（佐藤 司君） まず、自律協生が町民に対してどれだけ波及しているのかというご質問だったのですけれども、2022年から武蔵美と日本総研が協定を結んで共同研究始まっています。その間ずっと毎月お二人に来ていただいて、それで1次産業者の人とヒアリングしながら、そして毎年1回は町民向けに報告会を開いております。まず最初に、2023年8月4日に森町長、鹿部町長、七飯町長が集まった中での研究報告会をやっております。さらに、2024年11月13日には北海道中小企業同友会函館支部噴火湾地区において報告会という形でこれまでやった実績を報告しております。ですので、公な活動というところでのどこまで浸透したかというのは、はっきりとした証拠はないですけれども、そういった形で一応1年間に1回は必ず町民向け、企業向けに報告会やっておりますので、いわゆる自律協生という言葉は伝わっているかなというふうに思っております。

あと、先ほどPRというお話だったのですけれども、この間2年間やってきた中ではこういうことを3年間の実績としてやっていくぞということはお伝えしております。ですの

で、4月からスタートするとしてもこれまで2年間の積み重ねもありますので、そういった形でこれからももっとたくさんの人たちに来てもらえるような仕組みづくりをしていきたいと思っています。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 2年間の活動実績があるっていいながら、そして報告会もやっているのだと言いますが、それどこで見れますか。町民向けにホームページに公開されていますか。そういうのがない中でなぜ言えるのだろう。年1回報告会をやって、何でそれが町民に浸透されることになるのですか。今の話聞いて、ああ、そういえば新聞であったよねぐらいです、私の記憶では。だから、どうなのですか、こういうのをやっぴながら全然独りよがりというふうにししか聞こえてこないのです。だから、ぜひとも過去の活動の実績をホームページなんかで公開して、町民に少なくともこういう形でやって、ここを見ればどういうことをやっていますかが分かりますからということを見せないはずではないですか。さらに、今回予算委員会においても一切そういう資料というのを提出されていないのです、ただ口頭で言っているだけで。それを聞いている議員の人たちに理解してほしいのだからと逆に思ったりもしてしまうわけです。再度その辺いかがでしょうか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

確かにホームページ等々は最終的な報告会の総括というか、取りまとめた内容とかは掲示しておりません。ですが、新聞、そして広報等でこういうことやりましたということは報告させていただいております。ですので、もう少しその辺はこちらとしてもたくさんの人たちに来てもらいたいというのもあるので、事前にそういった形で広報活動はしていきたいというふうに考えております。また、最終的に今回の行った3年間の総括という形で冊子を作る予定になっています。ですので、3年間の中でのこういうことをやってきたということは、広く町民に対しては周知していきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 委員長、質問に答えられていない部分があるので、再度確認します。いいですか。

○委員長（伊藤 昇君） いいです。どうぞ確認。

○委員（松田兼宗君） 空き家対策、空き店舗対策のことにに関して一切答えていない。それ全く関係ないと思っていいのですね。だから、それを答えていないのと、ホームページの中で公開していくという考えあるのかなのか、その2点だけはっきりさせてくれればいいです。

○農林課参事（佐藤 司君） 今回の廃倉庫を利用するというのは、空き店舗の対策ではございません。あくまで森町の歴史を知ってもらう、そういったところからあそこの場所を展示会場として使うということでありです。

あと、ホームページで公開するというのは、検討していきたいと思っております。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 今のところなのですけれども、研究成果を発表して終わりということですか。これは、このまままた継続してこの自律協生の目指すゴール地点というか、こういうことで一応この事業は終わりとかという、何かそういうものがあるのであれば教えてください。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

日本総研と武蔵野美術大学の共同研究というのが3年間でございます。ですが、これまでやってきた実績も踏まえた上でフォーラムを開催して、そしてその中身に応じてこちらの資料に書いてあります第3次森町総合振興計画のほうに何らかの形でその中身が採用されていけばいいかなと思っていますので、引き続き日本総研と武蔵野美術大学さんには協力していただきたいということは考えております。

以上です。

○委員（斉藤優香君） では、一応この自律協生社会に関する研究は一旦終わり、その後第3次の総合計画の中に関わってもらうためにまた新たな研究をしていくという形になるのですか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

基本的には、一旦3年度でこの自律協生というテーマでの事業のほうは終了しますけれども、これまで関わってきた市町村に対しては引き続き何らかの形で関わりたいというふうには聞いております。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、128、129ページ、款6 農林水産業費、項1 農業費に入ります。ちょっと飛びましたけれども、よろしいでしょうか。128、129ページ下段から130、131ページ上段、款6 農林水産業費、項1 農業費、目1 農業委員会費、質疑ありませんでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、目2 農業総務費、質疑ございますでしょうか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） それでは次に、130、131ページ中段から132、133ページ上段、目3 農業振興費、質疑ありませんか。

○委員（斉藤優香君） 12の委託料の中で福島大学の受託研究委託料というのが入っておりますが、これ毎年福島大学と一緒に研究していることだと思うのです。去年までは、タマフクラを宇宙食ということで研究されていたと思うのですけれども、今年度、来年度というかもその研究内容は変わらず、そこのみやっていこうという考えでしょうか。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

新年度につきましては、今検討しているのはトマトのまさにその分析、それからサツマイモ、もう一つはブロッコリーで、これらのいずれかをまさにその分析をしようというふうに考えています。ちなみに、今年はカボチャのほうの分析をしていたのですが、9月に森高校さん、それからさわら小学校さんのほうに出向いて試験研究成果の報告をさせてもらったり、あとは小学生向けにはつかめる水を作ろうということで学生さんもこの際11名来て教授と合わせて12名でそういった指導を行いながら交流を深めてきました。森高校さんのほうに出向いたときには、まさに学校の先生側のほうからぜひ平教授の授業を組み入れたいという話もいただいていたので、そこはこれから教育委員会側ともそういう調整をしてみたいなと考えています。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 今年のときにもトマトとかサツマイモとかブロッコリーという話も出ていたと思うのですけれども、なかなか進まないなと思っていましたところ、学習目的というか、学習目線でこれを活用していくのかなって、私は6次化というか、いかに森町のものを広く町外の方たちに知ってもらい、付加価値をつけて生産してもらうためにやっているのかなと思っていましたのですけれども、そちらではなく、そういう学習目的にしていくということなののでしょうか。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

基本的にはやはり高付加価値化、ここが出口になりますので、タマフクラの関係も分析をした結果を受けて市場取引が結構金額を上げていただいたりとか、そういったところに結びついていますので、基本はそこにあるのですけれども、ただそれだけではなくて、そういった研究成果も併せて町内の例えば小学校とか中学校とか、あとは高校さんのほうにも出向いてそういった成果の発表もして福島大学のほうにあわよくば例えば進学を目指すというところのそういった支援、協力もしていきたいなと考えています。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） 3回目ですね。

○委員（斉藤優香君） はい、3回目です。私は、やはりここで福島大学に来ていただいて研究してもらい、そして去年というか、今年は食品加工のほうの学科も関わってやっていたと思うのです。違いましたか。そういう意味では、食品加工にも力を入れてもらいたい、せっかくであれば分析だけで終わらず。成分分析は、どこでもできるといえはできるのではないかなとは思っています。その先、ではそれをどうやって使っていくかというのを農家の方たちと共同で考えて新しい商品とかを作っていく、それを町民だけではなくて町外にも知ってもらいということが大事なのではないかなと思うのですけれども、再度お願いします。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

今年は、講演する機会をやはり研究の遅れがちよっとあつてつくれなかったのですけれども、新年度改めて例えば今回分析をしていただいていますカボチャのそういった研究成

果などを今度は生産者向けにそういったものを具体的にやっていきたいということで、ここも調整をさせてもらっています。

今斉藤委員のほうから質問された内容を受けて、一般的に普通にできる研究ではないということは心に置いていただきたいと思います。これは、特殊な研究だということをもまず認識していただいた上で話を聞いていただきたいと思いますけれども、例えばビタミンのA群とかB群与えるパーキンソン病のそういった改善効果の検証とかもやられていますし、あとはイメージング質量分析で例えば毛髪内のストレスマーカーのこういった研究とかもされていますので、やはり大学ならではといたしますか、こういった研究されていますので、まさにそういったものに最終的に結びつけるような、例えばうちで作っている生産物が何かにそういう効果を発揮できるような、そういった結びつきといたしますか、そういうところもやっていきたいと考えていますので、そこはご理解いただきたいと思います。

以上です。

○委員（河野 淳君） まず、給料の農業専任指導員給料というのが多分新しく出ていると思うのですが、この方どういう方を想定していてどういう効果を考えているのかということについて教えてください。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

まず、この予算措置に至る前に北海道、それから普及センターのほうといろいろ調整をさせていただきました。我々考えているのは、普及員のOBを何とか招聘したいというところで予算化のほうさせていただきました。正直本当に技術普及員を招聘できるかという不安もある中で予算措置をさせてもらっています。ですから、イメージではやはり技術普及員で、町内の例えば親元就農の方、それから新規就農の方、こういった方に対してそういう技術普及をこの方には進めていただこうというふうな考え、予算措置をさせていただきました。

以上です。

○委員（河野 淳君） 分かりました。最近普及センター自体が広域扱うようになって、森町単体で指導員の方が来てくれるのですが、巡回の頻度っていいですか、なかなか少ないので、例えば農業経験の少ない方ですとか、新規の作物やっている方というのは結構普及所の指導員の方の蓄積が必要だと思うのですが、その辺をカバーしていただけるということで認識しました。

もう一件、先ほどもあったのですが、大学の研究事業なのですが、先ほど6次化に特化されていたのですが、やはり生産者としては作る農産物に対して付加価値をつけて価格を上げたいという部分がありますので、例えば昨年度タマフクラの有効成分がほかの作物に比べていいよということで新聞にも取り上げていただいたのですが、森町の主要産物であるトマトですとか、あとカボチャなどで例えばほかの地域より優位性があるよというのをやはりやってもらったほうが、6次化というのはすごく目立っていい話なのですが、農業全体にやっぱり資するということであれば、製品の有用

性を全体的な目でPRしていただくというのが農業者としてはありがたいと思うのですが、その辺についてどのようにお考えでしょうか。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

まさに河野委員おっしゃるとおり、この間いろいろ生産者の方とも話をさせていただいています。ですから、先ほど6次化の話はさせてもらったのですが、生食で出す、そこに付加価値を一番つけられれば、まさにそこに対する費用なども抑えられますので、そういったところも福島大学の教授のほうにも伝えながら何とか形にできるように調整していきたいと思います。

以上です。

○委員（河野文彦君） この農業振興費のところ聞くのがふさわしいかなと思ってお聞きしたいのですが、以前にタマフクラを成分分析して宇宙食にぜひ採用してほしいというような、結構報道なんかでもされました。新聞か何かに出ました。大変夢があつていいお話だなと思って聞いていたのですが、その後どうなったのか。成分分析が終わって、その結果によるのかもしれないのですが、その後どういうスキームで採用までいくのか僕は詳しいところは分かりませんが、その後営業的なものなのか、売り込み的なものなのか、そういう活動をしているのか。もし今年度、7年度するのであれば、そういった経費がどの辺に入っているのかなというのを教えていただければ、お願いします。

○委員長（伊藤 昇君） 河野文彦委員、予算審議ということでの質問ということでもよろしいですね。

○委員（河野文彦君） はい。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

まず、予算につきましては、振興費の中には取っておりません。宇宙食の関係につきましては、昨年徳島大学のほうにお邪魔していろいろ話をさせていただきました。その後に道内でまさにその宇宙食を実際に作られているところが十勝管内にあるのです。そこに照会したところ、そこからJAXAに出向しているという状況も話を聞きまして、まさにそのJAXAに出向している方と直接お話をさせていただきました。そのときに話があったのは、まさに広告塔的なメリットがまずあるのだよということです。あとは、作るものによっては健康管理とか栄養学の向上に結びつくのだと。それから、新しい食品開発の機会にもつながるのだよという話がメリット的な話でした。ただ、デメリットのほうが非常に大きくて、まずもってコストが高いのだと。宇宙食の製造というのは、特殊な技術、設備が必要で、その開発、製造に係るコストが非常に高いと。これにより、商業ベースでの量産が難しく、価格が高くなるのがデメリットになるのですと。宇宙開発に関連する費用は、宇宙食の製造は高コストになるよというまず話が1つありました。それから、市場規模にはちょっと限界あるのだよねという話がありました。なかなかやはり売れないというのは、広告塔にはいいのだけれども、なかなか商売として売れないので、実際に製

造を依頼したところの負担になるというところの話がありました。というところも踏まえて、諦めてはいないのですけれども、そういうやってくれそうな企業さん、道内には実際にやっている実績がある企業さんあるのですけれども、いろいろ調べると大手さんが大半を占めているという状況の中で諦めてはいないのですけれども、何とかそういう話をする機会があればそういった提案もしながら、そこは諦めずに進めていきたいと考えています。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 133ページの負担金及び交付金のところの馬鈴薯共選機等支援事業補助金500万なのですが、これについてどういう仕組みでこの補助金を出されているのか。というのは、先日トマト共選場の問題で北斗市に統合されるのだから話がありました。今後それは話が進んでいくのだからけれども、それと比較する上でどういう形でこの共選事業に500万が今回出されているのか、過去からのつくったときの金の流れがあるのでしょうか、今回500万のものを計上されていることについての説明をお願いしたいのですが。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

まず、馬鈴薯の共選機につきましては、まず対象事業費を提示していただいて、500万の7年間を債務負担を組んで各500万を7年間支援するという内容にさせていただいています。ベースになっているのは、当初予算化する際に説明をさせてもらったのですけれども、生産者が負担する共選料に対する負担を町が協力するという内容で支援のスタートをしたと思います。実際に今年まさに共選料、共選機が使われていて共選実績なども出てきています。計画に対してまさに共選自体は計画百何%の状態が使われているという数字も実際に出てきていますので、生産者の方からの声を聞くと、非常に更新されてよかったという話も聞いていますので、効果的には現れてきているのかなという状況です。

松田委員おっしゃっている予算の詳細というのは、どこまでかというのを逆に改めて詳細教えていただければ、そこは調べて場合によっては追って提出したいと思います。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 今の説明で共選料の形で出すのだという説明をしたのですが、この名目上からすると馬鈴薯の共選機に対する修理の部分で出しているのかなというふうに見られるわけです、これだと。今の話だと、共選料の一部として出すのだと、それはトマトのときも同じ考えなのだなどと改めて思ったのですが、そういうふうな受け取り方でよろしいのですか。そしたら、今後いろんな形でこういう形で機械の名目を出すけれども、中身は共選料の一部として、だから箱詰めした分1箱この前トマトの24円とかなんとかって話もありましたけれども、そういう考え、馬鈴薯の箱詰めしているわけですから、それに対しての1箱幾らという考えで出しているのだというふうな受け取り方でよろしいのでしょうか。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

松田委員おっしゃるとおり、まさに共選料に対して支援をするという内容で予算化させていただきますので、松田委員おっしゃるとおりです。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、目4畜産費、質疑ありませんか。いいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、132、133ページ下段から134、135ページ中段、目5農地費、質疑ありませんか。いいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、134、135ページ中段から136、137ページ上段、目6駒ヶ岳ダム管理費、質疑ありませんか。

○委員（河野文彦君） 137ページのほうの工事請負費なのですけれども、結構大きな事業ですけれども、発注の方法を今どのように考えているかと、今回はエンジンタイプのポンプにするということで電動化は検討したのか、あとちなみに今回設置する予定のエンジンは何馬力程度のものなのか教えていただけますか。

○農林課技術長（濱野真行君） お答えします。

まず、発注方法につきましては、昨年度から行われておりますように随意契約を予定しております。

また、電動化についてですが、一応調べた結果につきましては引込みの場所が掛澗の地区になりまして、そこまでの引込みの金額が相当かかるとということで、費用対効果的にはエンジンのほうが安いという結果になっております。

また、馬力については、現在と同様107馬力というふうになっております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 随契ということなのでしょうけれども、事前にこういった形で最終選考に至るかまでは私も分からない部分もあるのですけれども、ぜひこういったメーカーは数社日本でもあると思いますので、その辺しっかり見積りをいただくなりしてしっかり価格調査して低価格なものを導入するということは絶対行ってほしいなど。以前からこのメーカーだから、このメーカーにしか問合せしないということだけは絶対やめてほしいというふうに思うのですけれども、いかがですか。

○農林課技術長（濱野真行君） お答えします。

今回のことに関しましては、急遽壊れたことによってもともとあった方にまずご相談したことから始まっておりますので、今回そういう結果になっておりますが、今後新たに出てくるようなものに関しては当然まず公共性を図るため入札ということも視野に入れながら考えていきたいと思っております。

以上です。

○委員（河野 淳君） 負担金及び補助金で道営土地改良事業の負担金今回計上されていまして、今回計画策定なので、財源等は一般財源で行うと思うのですけれども、今後3年で事業進んでいくと思うのですけれども、計画としては濁川地域、姫川地域、財源としてはどのようなものを考えているでしょうか。

○委員長（伊藤 昇君） 暫時休憩します。

休憩 午前10時37分

再開 午前10時38分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課技術長（濱野真行君） お答えします。

今回の事業に関しましては、令和7年度は道が50%、町が50%という負担割合になりまして、令和8年度以降に関しましては国50%、道31%、地元19%という形の負担金になりまして、裏の起債に関しましては充当される予定であります。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、目7濁川防災ダム管理費、質疑ありませんか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、目8熱水利用園芸施設費、質疑ありませんでしょうか。いいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、136、137ページ下段から138、139ページ上段、目9山村振興施設管理費、質疑ございますでしょうか。

○委員（斉藤優香君） 委託料のちゃっぷ林館の指定管理料の委託料に関してなのですが、このたび指定管理料が1,200万ということで、目的の中で説明していただきたいのが管理運営に係る費用の一部を支援し、この一部というのはどこを指しての一部ということなのかということと、指定管理料を定めるとき、昨日体育課でもふれあいの森の指定管理料のときには町側で精査して管理料を決めて金額を提示して公募するという形を取っていると思うのですけれども、森町、以前全員協議会で聞いた説明によると、町がこの額を査定したわけではなく、ちゃっぷ林館からの提示による金額というふうに理解したのですが、その辺りお願いします。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

まず、一部ということにつきましては、利用料金制でやっていますので、それから漏れる部分を試算したときにはまさにその指定管理料でお支払いするというイメージの一部と

いう捉え方にしております。

あとは、昨日教育委員会のほうで指定管理者の更新の関係の説明がありました。基本的に公募する際は、ちゃっぷ林館のほうも同じような形になると思います。ですから、公募時の指定管理料がまさに今回ご提案した金額になるかどうかは、正直分からないです。なぜかという、まさに来年度に入って早々に今年度の収支報告があるからです。ですから、そういったものも加味して、あとは物価上昇とか、そういうものも加味して次期の更新の際の指定管理料は定めていかなければならないというふうに捉えています。あとは、今回指定管理者側から上がってきたものをベースに予算化しているだろうという、極端な話そういう質問かなと思うのですけれども、当然のごとく上がってはきたのですけれども、我々もまさに中は確認して予算化していますので、そこはご理解いただきたいなと思います。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 確認なのですけれども、ちゃっぷ林館の指定管理をお願いしている部分というのはお風呂の管理とキャンプ場ということで変わらず、その後の来年度からまた公募するときもそういうふうな意味合いの中の指定管理料ということで考えているということでしょうか。

○委員長（伊藤 昇君） 斉藤委員、今の発言の中で冒頭に確認をしたいというのがあるのですけれども、質疑でございますので、確認事項でございますので、質疑でよろしくお願ひしたいと思ひます。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

基本的には管理形態は変わらずに、今実際に管理していただいている温泉本体、それからキャンプ場、ここが基本になると思ひます。それから、実際に自主事業で行っている売店っていいですか、こちらの管理も含め、全体のそういった収支が出てくるというふうに捉えていますので、そこは変わらずにやっけてまいりたいと思ひます。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 券売機収入とか、券売機の状態とかというのは、町は毎月確認をしているのか、それとも必要なときにしているのかはどうなっているのか、最後に教えてください。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

毎月というよりも必要なタイミングというふうに捉えていただけていいと思ひます。ただ、何かあれば、その都度連絡をして書類的なものお願ひすれば速やかに出していただけるような体制になっていますので、そこは求められればそういった資料の提供などもできるのかなと思ひています。

以上です。

○委員（河野文彦君） 備品購入費の作業用車両なのですけれども、この項目で車両の購入ということなのですけれども、どういった使用用途の車両を購入するのかと、あと車両の購入で110万円という大分安いのかなと思ひますのですけれども、どういった車種を購入予

定しているのか、お願いします。

(「ちょっと時間もらっていいですか」の声あり)

○委員長(伊藤 昇君) 暫時休憩します。

休憩 午前10時45分

再開 午前10時45分

○委員長(伊藤 昇君) 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課長(寺澤英樹君) お答えいたします。

場内で使う草刈り機になります。

以上です。

○委員(野口周治君) 先ほどのちゃっぷ林館のところについて4点お尋ねをします。

入浴料を上げましたと、だがこちらも上げなければいけないというのはどういうことなのかと、それを説明してください。

それから、2つ目、この対象になる事業、先ほど同僚委員からお風呂とキャンプ場だよねというお尋ねがありましたが、それに重なりますが、例えば食堂、売店などの収入は、あるいは収支はどういう関係にあるか教えてください。

それから、3つ目、入浴料の水準について尋ねますが、近隣のほかの自治体の入浴料水準及び収支、またはそれぞれ当該自治体からの補助の状態、比較で考えたときに森がどういうポジションなのか、何か特徴があるのかということをお教えください。

それから、4つ目です。この委託契約の話は、指定管理の契約に基づく話だと思いますが、指定管理の契約の期間中に条件を見直すことになるかと理解をしていますが、通常は約束したことはその期間は守ってねというのが契約の建前です。それに対してなぜ期間中にこういう見直しをすることになるのか、あるいは見直しをしようとしているのかを説明してください。お願いします。

○農林課長(寺澤英樹君) お答えいたします。

まず、入浴料を上げたのにまた指定管理料求めてきたという形の答えになりますけれども、まず議会の全員協議会のほうでもご説明させていただきましたが……

○委員(野口周治君) 全員協議会の話ここで出さないほうがいいと思います。だから、聞いているのだから。

○農林課長(寺澤英樹君) 失礼しました。

○委員長(伊藤 昇君) 暫時休憩します。

休憩 午前10時48分

再開 午前10時49分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

入浴料を一時上げて収支のほう改善したのですけれども、まさに改善した以降、本来温泉部門でお支払いしなければならない部分を指定管理者本体のほうで面倒を見てきたという状況でありまして、それを正した結果、改めて指定管理料が発生したものでございます。

それから、お風呂の収支、キャンプ場の収支ということですが、お風呂とキャンプ場、売店の収支は毎年年度が明けた4月から5月の間に収支の報告をいただいております。食堂は、家賃収入で温泉側で収入を得ています。ですから、食堂のほうは、別に収支を設定しているということですので、この収支の報告は今指定管理上求めておりませんので、必要であればお願いすれば出してくれるとは思いますが、その分はまさにちやっぷ林館の収支には含まれていないということです。

それから、料金の水準とはということになりますが、近郊の同様の町が管理している温泉施設、これは全て確認をしております。料金形態でいきますと、やはりちやっぷ林館の料金はちょっと高めに設定されています。近隣でいきますと、七飯とか北斗とか、あとは知内とか、あとは福島町、こういったところと比較した結果が現状ちょっとちやっぷ林館は料金が高めに設定されているというふうに捉えていただいていると思います。

それから、協定につきましては、まさに今回の指定管理料を受けて協定内容を改めなければならないというふうに捉えております。

以上です。野口委員、質問に答えていないものあれば、逆に言ってください。お願いします。

○委員（野口周治君） 大枠論点の一致した答えはもらっていると受け止めます。今の答えの中で2か所に出てきた受託者、要はワイエスさんだと思いますが、こちらのほうの事情で、私の理解これでいいかどうか尋ねますが、経営の在り方が変わりました、先方が。本来は、指定管理の仕事の中で賄うべき損益を実はワイエスさん固有の事業の損益で穴埋めをされていたことが、知らなかったけれども、分かりました。そして、その分は、本来もらわなければいけなかったものだと考えますという相談があったのかなど。それに対して突っぱねることは可能ではあるかもしれないが、本来こちら側の費用で考えるべきものをかぶせていたのはよくないと考えたから変えることにしたということでもいいのかどうか。これが1つ目。

これを断ったら、何が起きるとお考えか。というのは、選択肢は、ビジネス、契約ですから、断ることも可能です。断ったら何が起きる、だからこう考えるという説明が必要だと思うからお尋ねをしています。

それから、先ほど料金は高めであると。高めなのになぜ赤字がこんなに出るのか、ほかの施設はもっと安いのに赤字ではないのかという問題につながるはずなのです。要は収支構造の中の何がどうかということと比較しないと、この答えはないはずで。そういう分析はされているかどうかを尋ねたので、ここは答えが足りませんから、お願いします。

(「ちょっとすみません」の声あり)

○委員長(伊藤 昇君) 暫時休憩します。

休憩 午前10時54分

再開 午前10時55分

○委員長(伊藤 昇君) 休憩前に引き続き会議を再開します。

ここで11時10分まで休憩いたします。

休憩 午前10時55分

再開 午前11時10分

○委員長(伊藤 昇君) 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課長(寺澤英樹君) 答えいたします。

1点目は、野口委員おっしゃるとおりです。

2点目につきましては、1つの自治体を除いて利用料金、それから指定管理料の併用型でいずれの自治体も運営されています。ですから、料金自体は実際に安いのですけれども、料金がある程度抑えようとした場合にはまさに指定管理料を増やしてあげなければならないというような状況になっています。

3点目につきましては、これらの今回の提案が理解が得られない場合と、そういったところを尋ねると、指定管理を期間途中でまず投げ出すことはしないとの話をしていただきますが、海商の経費の中でちゃっぷ林館の運営費の一部を賄うことは今後できないので、当該指定管理料のない令和7年度の運営はかなりの規模で事業を縮小せざるを得ない状況との説明を受けております。また、一度手放した雇用の再確保、それからスタッフの知識、経験、縮小事業部門における客離れなど、1年間で蓄積される機会損失を再度令和8年度以降で回復させることは現指定管理者としては非常に困難な状況になると思料されるということで、場合によっては次回の公募には応募しないというような話をいただいております。

以上です。

○委員(高橋邦雄君) 委託料、今ちゃっぷ林館の件でお尋ねします。

時代背景の影響によってこの予算が出てきたのですけれども、本来は指定管理者側の自社努力で今までやってきたというのを確認しました。それで、今後ここを維持していくためにも入札等あると思います。基底は、これぐらいの金額は常にかかるというような認識でよろしいですか。

○農林課長(寺澤英樹君) 答えいたします。

高橋委員おっしゃるとおり、最低でもこのぐらいはかかると。その根拠としては、温泉

部門単体の収支を参考までに出していただきました。そしたら、見込みになりますが、1,300万円程度の赤字が予想されるということでもありますので、まさに金額としては適正なものかというふうに捉えています。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 今のちゃっぷ林館のことにに関してなのですが、1,200万が妥当なのだみたいな話しするのはいいのですが、そもそもこの施設もう30年ぐらいたちます。そんな中で森町が建てて直営でやっていたのです。そして、指定管理者制度を利用する形へ変わったわけです。それで、そもそもこのちゃっぷ林館の建てた目的は一体何なのですか。それに照らし合わせて町にとって、町民にとって必要だから建てたものだと思うのです。とすれば、これだけの年数がたって指定管理をしてもらっていないながら、設置者である森町がこのちゃっぷ林館をどういう目的で町民にとってどういうメリットがあって設置しているのですかということ振り返って考えないと、それにこの1,200万が妥当だと、幾らまで出してもいいのだという部分がないと判断のしようがないのではないかと思っているのです。だから、最初に立ち返って考えるべきだと私は思うのですけれども、いかがですか。

○委員長（伊藤 昇君） 暫時休憩します。

休憩 午前11時14分

再開 午前11時15分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

設置の目的は、条例に記載のとおりです。ただ、松田委員おっしゃっているそこに幾らまで出せるのかというのが妥当かというところなのですけれども、今我々のほうで押さえているのは実際に比較するとすれば本当に物販とか、そういうものを除いて温泉単体で収支構造がどうなっているか、それが基準になるのかなというふうに捉えています。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかに、いいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、138、139ページ中段、項2 林業費、目1 林業総務費、質疑ありませんでしょうか。

○委員（河野文彦君） 報酬の部分で山火事予防巡回人ということなのですけれども、最近岩手県の山火事で大きな被害が発生しているのを見ると、こういった方に巡回してもらうというのは大変大事だなというふうに思っていました。そういった中で今回この予算の範囲内で巡回人の方、例えば何名で何月から何日までとか、何月から何月までとか、あとあくまでも町有林だけの巡回なのか、ほかの民有林も巡回しているのかとか、そういう……課長、大丈夫ですか。この方の巡回人としての職務の範囲というか、規模というか、そう

いったところをまず教えていただけますか。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

河野委員、今手元に資料がないので、巡視の回っている場所、それから人数、そういったものを後から報告させていただきます。

以上です。

○委員（河野文彦君） それでは、巡回人の件は、後で報告していただければと思います。

もう一点、山火事を防止する中で防火帯、一部木を伐採して火の延焼を抑えるための防火帯というのが大変効果的だというふうにお伺いしているのですけれども、例えば今回作業員報酬なんかもありますけれども、森町としてそういう防火帯の設置、維持管理、そういったものの経費というのはこの作業員報酬に入っているのか、そういったところを教えてくださいいただけますか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

防火帯に関する費用は、入っておりません。あくまでも巡視するための雇用の費用になっております。

以上です。

○委員（河野文彦君） それであれば、逆に今ここに作業員報酬というふうに上がっているのですけれども、この作業員報酬の作業の内容というのはどういう内容になりますか。

○農林課参事（佐藤 司君） カラスの駆除に関する作業員の報酬になっております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 別件で、負担金のほうの項目に熊関係の捕獲の交付金だとか、ハンター保険だとか、免許の取得助成なんか入っているのですけれども、私、例えば担当課でいくと農業の部分と林業の部分とあって、被害が例えば大きいだとか、出勤回数が多いだとか、そちらの項目にしていくべきではないですかって事あるごとに言っているのですけれども、今回も熊の部分、ましてや免許の取得費用まで全部林務関係のほうに振り分けられているのですけれども、その理由、なぜ林業費なのか、なぜ農業関係のほうにしなかったのかをお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） まず、鳥獣対策事業というのを資格とか交付与えているのは全部林務でやっております。そしてあと、道からと国からの補助事業も含めて全て林務のほうで行っておりますので、ほかの課で予算持つとなると、そこだけで時間がちょっとかかってしまう、不手際が起こる可能性もある、ですので一括して林務のほうでやっているとこの事業になっています。

以上です。

○委員（河野文彦君） 今の説明であると、林業総務費に振り分けた熊関係のものは補助金があるので、その絡みでこの項目に置いているということによろしいですか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

河野委員おっしゃるとおりです。

○委員（河野文彦君） 財源内訳見ると、国、道支出金、地方債なくて、一般財源です。何か今の説明とちょっと資料が食い違うように聞こえるのですけれども、お願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） 熊の交付金に関しては、直接鳥獣対策協議会のほうに入っておりますので、林務のほうには入っていないということになります。

○委員（河野 淳君） 鳥獣対策事業の関係なのですけれども、上のひもつきあるかないかではなくて、鳥獣対策自体が林務で担っているということと、被害が人的被害でも農業被害でも鳥獣対策の被害の協会の管轄自体が林務のほうで担っているので、林業総務費のほうで取り扱っているという認識でよろしいでしょうか。

○農林課参事（佐藤 司君） 河野委員おっしゃるとおりです。

○委員（松田兼宗君） 139ページ、森町狩猟免許等取得助成金105万、これ何人を想定しているのだろうか。そして、これ取得に係る免許の何%を補助する形になるのですか。まず、それをお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

3人を予定しております。

○委員（松田兼宗君） 何%。

○農林課参事（佐藤 司君） ほぼ対象になっております。

○委員（松田兼宗君） そしたら、3人分取っているということは、3人取得する人がいるのだと想定しているのだと思うのですが、過去にやっているわけです。実際にどの程度増えて、今後それを見越した形でこの予算計上しているのだと思うのですけれども、その見込みはあると判断してよろしいのでしょうか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

一応予算的には3人分になってはいますが、毎年、令和4年1人、令和5年1人、令和6年度も今のところ1人ということで3人の助成を受けている実績があります。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、142、143ページ上段、目3林道事業費、質疑ありますでしょうか。

○委員（河野 淳君） 役務費の保険料で森林の保険料が計上されています。過去にかなりの金額、全部の山に掛けていた、町有林に掛けていた経過あって、最近は大分規模減らしていると思うのですけれども、実際今例えば何年までの木に掛けているとか、そういう基準があれば教えてください。

○委員長（伊藤 昇君） 暫時休憩します。

休憩 午前11時26分

再開 午前11時27分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

面積ですけれども、駒ヶ岳、尾白内、砂原地区人工林の150ヘクタールが対象となっております。昨年度同様で、場所も同じで掛けております。

以上です。

○委員（河野 淳君） テレビとかで最近大船渡の森林の火災の部分やっているのですけれども、過去にもたしか森町で台風の風倒木とかで保険掛けていた部分で保険金戻ってきて植林作業が進んだという部分が出ていますのですけれども、今後例えばずっと掛け続けるというわけではないのですけれども、ある程度リスク等考えて国営保険どうするかという部分について教えていただきたいのと、民有林もあると思うのですけれども、民有林の中で保険入っていない事業者の方も中には多分いるかと思うのですけれども、例えばそういう方が仮に火災ですとか台風とかに遭った場合に復興が難しくなると思うのです。その部分町で買い取るわけにもいかないですし、そうなる前にほかの事業とかでもあるような例えば保険の加入の促進事業ですとか、そういうことというのは何かあるのでしょうか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、確かに林野火災、あとそういった風倒木被害、前回10年前風倒木被害あったときに保険がちょうど充当されたということで、やはりそういう被害に遭いそうな場所というところに今回は限定して保険に加入している状況です。ですが、やっぱりほかにもいろんな要因も含めて保険を掛ける必要があるかなというふうに今回の山火事で思いましたので、そこは検討していきたいと思えます。

あと、民有林に関してですけれども、こちらは森林組合さんが管轄しているところでもありますので、そこは森林組合さんと綿密にその辺を話し合いながら検討していきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 先ほど私、目を1つ飛ばしまして、140、141ページ上段、目2 林業振興費に入ります。質疑ありますでしょうか。

○委員（斉藤優香君） 委託料の栗公園保育管理業務委託料なのですけれども、これ毎年私気になって聞いているのですが、下草の刈り入れだけにとどまるのか、それとも公園として管理をしていくのか、町民の憩いの場になるのかというところを教えてください。今年の事業の内容です。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

栗公園のほうの管理は、昨年度から林務のほうでやっております。来年度においても同じように草刈りと、そして清掃、この2点で委託事業として発注することになっておりま

す。ですから、今まで使っている公園として来ていらっしゃる方には、それほど変わらず使っていただけるかなということになっています。

以上です。

○委員（斉藤優香君） やはり熊とかのこともありますので、ぜひ下草をなるべく広く、そして町民が入りやすいような環境整備をしていただきたいなと思いますので、答えは要らないのですけれども、次行ってもいいですか。

○委員長（伊藤 昇君） いや。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

やはり下草とか伸びたりとか、あとそういう陰ができてしまうとどうしても野生動物が入る可能性もありますので、その辺は鳥獣対策としてやっていきたいというふうに思います。

以上です。

○委員（河野文彦君） 同じく委託料で望洋の森のところなのですからけれども、これも私は事あるごとに言っているのですけれども、今回の管理料というのはどの範囲まで行われるのか、まずお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

昨年と同様で、公園の管理をやらせてもらいます。あと、トイレの掃除等をやっています。

以上です。

○委員（河野文彦君） 課長とか最近行ったことあるか、ここ。毎回言うけれども、以前はすばらしいロケーションで内浦湾が一望できて僕もしょっちゅう行っていましたがけれども、今はもう周りに木が生えてしまって全く海が見えない、望洋の森だけれども、望洋できないです。なので、その木が個人のものなのか、たまたま道路敷地に立っているかは分かりませんが、可能であれば過去のすばらしい景観を取り戻していただきたいなという話はよくしているのですけれども、その辺今年度の予算にはないということで残念ながら今年は景観変わらないのかもしれないのですけれども、今後そういった取組もしてほしいなと思うのですけれども、いかがですか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

河野委員のおっしゃる前浜というか、望洋のところに木が生えているというのがまさに道の建設管理部で管理しています砂防になっております。ですので、私たちとしてもそこは話はしているのですけれども、やっぱりそういった機能をするためのものなのでということで回答がなかなか得られないという状況になっています。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 別件です。委託料の地域おこし協力隊のところなのですからけれども、この1,334万というのは今回たる作りということになるのか、何に使われるのかということろを教えてくださいたいです。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

来年度の地域おこし協力隊ですけれども、まず会計年度として1人継続、地域おこし協力隊、会計年度として任用型の職員がまず1人、そしてなおかつ新規で1人ってなっています。さらに、委託型って言われるミッション与えてやってもらうのが継続が2名、そして新規が2名となっております。委託型の1名が来年度の10か月で終了しますので、それが差っ引かれて12か月分ではなくて10か月分となっているということです。ですので、ミッションとしてたるの事業も一応入っておりますけれども、それだけではなくていろんな木育の木の開発とかもしますので、総合的にいろんなことやっていきます。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） すみません。佐藤参事に、来年度という言葉非常に出てくるのですけれども、今7年度審議をしておりますので、その辺りよろしくお願ひしたいと思います。

○委員（斉藤優香君） では、この中に地域おこし協力隊の委託料と事業費も入っているって、協力隊がやることに対してもこの中に全部入っているということになりますか。それとは別に、項目は後から出てくるのですけれども、木育とか、そういうのにも加味されて、それとは別に給料というか、報酬という、何ていうのですか、だけになるのですか、これは。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、斉藤委員おっしゃっている委託型の地域おこし協力隊の話でよろしいですか。まず、委託料として毎月29万円お支払いするという中身に関しては委託料なので、それはそれぞれの活動の中身になりますから、具体的にいろんなことやっていますので、ここでは差し控えたいですけれども、あと活動費というのが補助金って形で1人当たり200万当たります。その活動に関しては、まさにその活動に要する費用でございますので、それぞれの隊員が活動に要する費用という形になります。

以上です。

○委員（斉藤優香君） ということは、ではこちらから何かのミッションを出してやっていただくということではなく、あくまでも地域おこし協力隊が自分の考えの下、事業をやっていくということになりますか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

地域おこし協力隊の委託型という形になっていますので、こちらからいろんなまずこういうことやってほしいということミッションとして与えていますので、例えば木育キットを開発してほしい、先ほどお話あったるを作してほしい、そういった形でこちらのミッションは与えております。そういった上でその活動の費用をそれぞれが使っているという形になります。

以上です。

○委員（河野 淳君） 今地域おこしで8名予定しているということで説明受けたのです

けれども、町の地域おこしの中で林業関係の方が多分一番人数多くなるのかなと思うのです。いろんな考えがあると思うのですけれども、地域おこしの最終目標は地域の事業に携わることで最終的に4年後に町の中に住んでもらうですとか、町と関係性を持ってもらうのが最後の部分だと思うのですけれども、どうしても人数が多くなるとそのケアがだんだん難しくなってくると思うのです。年度中の事業の成果とかは、人数が多くなっても仕事があればできると思うのですけれども、例えば卒業間近になった協力隊の自立できるような町からの支援策ですとか、お金の部分だけではなくて人的支援とか、やっぱりその人の人生3年分預かっているのです、その辺使い捨てみたいな形ではなくて、なるべく町に定着してもらえよう取組についてどのように農林課のほうで考えていますでしょうか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

河野委員おっしゃるとおり、まさに私もそこが一番大事だというふうに認識しております。ですので、委託型に関しては、最初の1年目から起業を3年後の自分が目指しながら、1年目からそういった形で地域おこし協力隊の活動費を使ってくださいというふうに話をしております。ですから、3年目を迎えた地域おこし協力隊には、今後こういうことやっていきたいという事業化の相談も受けております。ですので、それを実現するために関係各課とも話をしているところでございます。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 141ページ、委託料のところの町有林管理業務委託のところなのですが、資料ナンバーでいうと44番です。これ委託料ですから、まずはどこに委託するのでしょうか、その辺教えてください。

それと、図面に載っかっているやつのがこれが全部の町有林ではないですよ。今後こういう形で町有林の管理を委託する形になるのでしょうかけれども、そういうことも含めてこれから先将来的に森林管理を行っていくというふうな形でいいのでしょうか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

森林を管理してもらい、いわゆる整備を管理してもらい、昨年までは工事請負費という形で予算計上していたのですけれども、予算計上の仕方をちょっと変えまして委託になっております。ですが、やり方としては一緒でございます、あくまでもこういう事業やれるところ、今のところ森林組合さんにこれまで委託はしていますけれども、今後もそういった形で入札をしながら図っていききたいというふうに思っています。やっぱり町有林の管理というところになっています。

以上です。

○委員（松田兼宗君） これ一部ですよ、町有林の。当然毎年のあれで、とすれば全体の管理計画というのは持っているのでしょうか。さらに、今多分森林組合だとは思っているのですが、今後今の説明だと別な形のものあり得るみたいなことの話をしたと思うのですが、その辺お願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まずは、町有林の今回というか、これまでも町有林のほうの委託事業という形で森林整備のほうやっています。さらに、この後森林環境譲与税のところに入っています私有林の整備事業のところあります。そこは、私有林のほうも含めて整備していかなければいけない、これまでよりもさらに踏み込んだ形で私有林のほうにも事業のほうを展開していきますので、ただなかなか全体をちゃんと把握するというのはかなり結構能力と時間もかかるところでもありますので、まずは町有林から全体を調査してやっていきたいということで、それもこの後森林環境譲与税のほうで拡充している部分でありますので、そのときまたありましたら質問をお願いします。

以上です。

○委員（松田兼宗君） もう一つ……

○委員長（伊藤 昇君） 別件ですね。

○委員（松田兼宗君） はい、別です。資料ナンバーでいうと45番の負担金及び交付金のところなのですが、豊かな森づくり推進事業補助金って今回上がっているのですが、これについて過去からあるってわけではないのだとは思っているのですが、図面に載っかっているところだと今までとは違った形の補助金というか、山村振興策だと。今までは、道とか国とかの絡みで支援があってやっていたのだけれども、今回は私有林に対しての森林所有者が事業主体であるという形で書いているのですが、そして所有者が全体の事業の6%で済むのだという形になっています。今までは、多分10%ぐらいだったはずなのです、この交付金というか、所有者の負担金というのは。それでも516万が町の10%の負担だということからすれば、事業者の負担金というのはこれより少なくなるのですが、この負担を所有者にさせていただいて今後進めるとしたとしてもかなり今の経済状況からすると難しいのではないかなと思うのですが、この事業を展開する上でどういうふうにその辺考えているのか、お願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

この豊かな森づくり事業に関しては、今年始まった事業ではございませんで、毎年やっている事業であります。所有者の負担は、この表にあるとおり6%という形になっていますので、やっぱり森林所有者にとってはかなり負担が少ない補助事業になっております。ですから、今後とも木を結局伐採して、その後木を植えないという所有者さんが一定数いるということになっていますので、国としても道としてもこの部分に関しては力を入れて所有者の負担は減らすということでこういった補助事業になっております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 所有者の負担は、軽減されて6%ですから、いいのです。これは、植栽事業に対してだけですよね。これから何十年も下刈りから枝払いからやっていかなければならないのです。その分の補助というか、も含めて考えなければならぬと思うのだけれども、その辺はどういうふうな形で補助事業というのが展開していつているのか、お願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

松田委員おっしゃるとおり、植えるときだけ補助金出して、その後の整備に関しては出さないのかというお話だと思うのですが、もちろんそこちゃんと手当てしております。枝打ち、この後保育、間伐、あと下草刈り、それも全て一定の補助金割合で補助しております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 今の話って、補助しているというのは国とか道の話で、森林組合を通しての話で、今回は森づくり推進事業の補助金としての考え方としてそこまでは考えていないのではないかなって、植栽だけのことしか考えていないのではないか、これだと思えるのですが、いかがですか、その辺。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

この資料にあるとおり豊かな森づくり事業というのは、あくまでも植栽に関しての補助になっていまして、あと予算書のほうで森林整備対策事業補助金というのがあるのですが、これがまさに町からの補助出している金額になっていまして、それに併せて公共事業ですので、道、国も負担して1人のその所有者の負担割合はかなり低い形になっております。ですので、トータルして助成しているということだけご理解いただきたいと思えます。

以上です。

○委員（河野文彦君） 地域おこし隊のところでお伺いしたいのですが、委託型の活動内容について先ほど同僚委員から質問あったときにこの場では活動内容差し控えたいと言ったのです、最初に。まず、委託型の活動内容が何なのか、この場でしゃべれないようなことはないと思うので、控えたいではなくてしっかり説明していただけますか。

○農林課参事（佐藤 司君） 差し控えたいというのは、言葉がちょっと悪かったと思います。あくまでもたくさんやっているの、大まかな今主な事業だけご説明したいと思います。

まず、委託型の小川隊員と春澤隊員というのが2人います。

（何事か言う者あり）

○農林課参事（佐藤 司君） 小川隊員と春澤という2人が今継続者としています。小川のほうは、木育キットの開発もやっておりますけれども、たるの事業をやります。そして、木育の自ら企画して、そしてイベント開いたりもしております。春澤隊員のほうなのですが、春澤は森高校の放課後デザイン授業のほうを主力的にやっております。あと、併せてロボコンという新たな事業ですが、そちらも継続してやっていくと思えます。ですので、あと1年間通じて森高校の授業もお二人には入っていただいておりますので、様々な事業のほうをやっているということになります。

以上です。

○委員（河野文彦君） しっかり活動しているではないですか。もしかしたら担当課が、

そんな差し控えたいなんて言葉はふさわしくなかったとは言ってくれましたけれども、そういう思いがあるから、この地域おこし隊の活動が町民に認知も深まらないし、理解も深まらない原因の一つではないかなと思ったものですから、その辺担当課としてもっと彼らがやっていること前端的に打ち出して町民の理解もしてもらおう、素晴らしい活動ですので、町民の協力もいただきながらプラスアルファのいいものつくってあげたいと思うのです。なので、もっと堂々とこんなことやっていますって事あるごとに発言してほしいと思うのですけれども、いかがですか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えします。

河野委員おっしゃるとおり、できる限り彼らの活動は幅広い形で広報なりホームページなり、そういった実績も含めてしっかりPRできるようにやっていきたいと思えます。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） それでは次に、142、143ページ上段から144、145ページ中段、目4 森林環境事業費に入ります。質疑ありませんでしょうか。

○委員（斉藤優香君） 12番の委託料なのですけれども、この中で先ほども話あったように木育授業体験業務委託料というのが昨年より50万円ほどアップされています。

（何事か言う者あり）

○委員（斉藤優香君） いいのですよね、森林環境事業。

○委員長（伊藤 昇君） 何か違うの言いましたか。よろしいですか。

○委員（斉藤優香君） 50万円ほどアップしていますけれども、どのような木育をこのたび考えておるのか、お願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

昨年度39万円から今回88万ということで50万ぐらいアップしているということなのですが、今年度に関しては木育の調査事業という形でさわら小学校全学年、あとさわら幼稚園、あと鷲ノ木小学校等々木育の授業のほうをやらせてもらっています。そういった中で改めて学校に木育を入れていくということはすごくいいことだなというふうに思いましたので、来年度は木育のワーキンググループというのをつくりまして、その中に各小学校、幼稚園の先生たちも入れて、あと北海道教育大学旭川校に木育を専門にやっている先生がいらっしゃいます。その先生を迎えて木育のプログラムをしっかりとつくっていかうという形でちょっと金額のほうアップしております。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 一番最初にやり始めたときは、森小学校の天板、机の、あれから木育が始まっているような気がするのです。この中で今説明あったら森小学校はないのですけれども、森小学校に対しての木育というのは全くないということでしょうか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

森小学校に関しては、人数も多いということでなかなか同じような内容で木育ができないということもあるのですが、来年度に限ってはこれまで天板を道南杉にしていたのですが、それを交換した形になっていて、それが今廃棄というか、残っている状況なので、今どういう形で使うかということにははっきりしたことはちょっと言えないのですが、一応その廃棄になった天板を使った木育授業をしていこうということで話しているところであります。ですので、森小学校の木育は、来年度は何らかの形であるという形になります。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 事業内容が変遷していくというのは、やっている中であることだとは思いますが、森小学校最初にやり始めたときは使い続けようという、使い続けていこうという事業内容から始まっていたと思うので、その辺りもぜひ森小学校の天板の活用、本当は使い続けてほしいのですが、天板の活用方法も入れながら森小学校も盛り込んでいただきたいと思いますけれども、いかがでしょうか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

木育の委託事業の中では、あくまでも先ほど言ったワーキンググループというところが主体となっている委託事業になっております。ですので、森小学校で行うのは、その事業外のほうで木育の取組としてやることになると思うのですが、やはりこれまで小学校、その天板を使ってきた子供たちこれから卒業していきますので、その思いが残るような形で記念品として充当できるように取り組んでいきたいというふうに考えているところです。

以上です。

○委員（河野 淳君） 積立金の関係というか、環境譲与税全体のことについてお尋ねしたいのですが、始まって何年かたって事業でちょっと目立っているのが人材育成ですとか木育普及啓発事業になっているのですが、実際環境譲与税の中見ると、例えば町有林の間伐ですとか、あと林道整備とかにも使ってもいいよというようなのが示されております。過去に林道についても舗装道路と違って一度開設しても結構補修が必要な部分ですとか、地滑りとかで経路自体を変えないと奥まで入っていけないということが度々あってかなりの事業費かかっていると思います。例えば普及啓発が駄目というわけではないのですが、根本はやはり森林整備の部分がメインだと思いますので、町有林ですとか民有林にかかわらず整備の部分、あと防災強化とか、例えば山火事のための防災ヘリとかの共同整備とか、一納税者としては森林整備のほうにも力を入れていただきたいと思うのですが、その辺ちょっと予算と離れるかもしれないのですが、基金積み立てているということで今後そういう事業展開とかあるのかどうかというのを教えていただきたいのですが。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

河野委員のおっしゃっております林業の整備のほうに森林環境譲与税もう少し充当した

ほうがいいのではないかというお話と全体的なお話があったと思うのですけれども、まさに私たちもそれは考えておりました、これまでやってきた5年間というのはあくまでも呼び水的な形でやっておりました。ですが、いきなり山のほうに入っても何のためにそれをやっているのかというところが見えづらいいところもありますので、まずは森林環境譲与税というのはこういう形で使われているということを一応ホームページ等で公開しておりますので、そういった形で使われているということともう一つ、今年から私有林のまさに整備事業というのを市町村単独事業としてやりますので、そういった形でこ入れはしていくつもりであります。さらに、これまで森林所有者の意向調査というのをやっていました。これまで125件やっています、いろんな回答得ています。さらに、残り125件分ありますので、それ今年一括してやっていこうというふうに考えています。ですから、まずは私有林の森林所有者の意向をしっかりと確認した上で、どういうところの山が今必要となっていることなのかというのをしっかりと把握した上で、その内容含めて森林環境譲与税の活用をしっかりとしていこうというふうに考えています。あと、今4,000万ぐらい積立金として残っておりますけれども、今後森町モデルの事業のほうである程度そういった実験棟みたいな建てていこうというふうに考えていますので、その金額として充当しているところでもあります。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 負担金補助及び交付金のほうの森町私有林整備事業というところなのですけれども、ここの中の補助事業のメニューの中で除伐、間伐、枝打ちとかっております。これをやっていくに当たって出てきた木材というかは、どうしていこうと思っっているのか、その活用方法というのはあるのかなというところなのですけれども、町長の執行方針の中でも木質バイオマスは重要な資源になるって言っていますけれども、その活用方法とかまで考えていられるのかというところをお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、これ私有林、要するに私有林の森林整備を進めていくという事業になっています。ですので、森町の森林ではございませんので、その森林所有者がどういう形で使っていくかというところまではこちらとしては把握というか、判断するものでないというふうには思うのですけれども、あくまでも山をこのままにしていたら荒廃してしまいますので、そういった意味で補助を使って森林整備を促していくという形になっていますので、ご理解いただきたいと思います。

以上です。

○委員（斉藤優香君） まさしくそういうことだと思うのです。山を守る、森を守るということは、除伐したものとかをどうやっていくかも含めて循環型にしていけないと、結局そこに放置されていけば山の環境が整わないということにつながっていくのではないかと心配があります。その辺の山でも多分、誰の所有か分からないのですけれども、倒れたままの木とかがそのまま残って、例えば道の駅の辺りでも倒れたまんまのがずっとそのま

まなのです。いつそれがって思ったりもするので、町全体としてそういう考えを持っていくことはないのかなというところでもう一度お願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

繰り返しになるかもしれないのですが、あくまでも私有林、民有林のほうの森林整備を促していくという補助事業になっていますので、今一応100万円を積んでいますけれども、これは要望が組合さんのほうからあればその都度増額していく考えでおりますので、町としては森林整備をとにかく進めていくというスタンスだけは変わらないという形でご理解いただきたいと思います。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 別件です。同じく負担金のところの森町モデルの推進協議会、これ森町モデルの資料ナンバーでいくと46ページになるのかなと思うのですが、今回森保育所のほうにトラスが採用されたと思うのですが、その後どのようにしていくか、この森町モデルではちょっと分からない、とにかく森町だけでやっていくのか、それともその先あれを見て取り入れたいというところも市場拡大していこうと思っているのかというところと、これからそうなっていくと責任が出ると思うのです。森町としてトラスをやった場合にメンテナンスとか掃除とかの結構方法も特殊になってくると思うのですが、そこまでお考えなのかというところをお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、森保育所のほうで今回トラスが採用されている、全くこちらで開発したものと同じものではないですが、アレンジを加えた形で活用されています。それは、ちゃんとどういうふうに関わっているのか、実際に組み立てた人からも話を聞いております。そして、設計者側の意見としても把握して、ですから実際にやっぱりやってみて分かったこととかということは調査して報告したいというふうを考えております。

あと、今回平行弦トラスなのですが、その後張弦ばりとか、あと壁、耐力壁を開発している最中でございます。ですので、まずトータルとしてこれからは実際に店舗とか、あとコンビニさんとか、そういったところである程度のトラスばりが必要だというふうには聞いておりますし、特にセブンイレブンさんとかは毎年15軒は木造の店舗を建てるといふことになっておりますので、そういったところに働きかけていきたいというふうを考えています。あくまでもさっきのメンテナンスとか、その辺の話についてはこちらとしては仕様書をしっかりつくって、あとつくってもらうのはそのつくってところが責任持つことになりますので、ですからこちらとしてはそういう責任は発生しないというふうになると思います。

以上です。

○委員（斉藤優香君） この森町モデルの事業の終着点というか、目標は、森町モデルの建物を建てるといふところで終わりということになりますか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、開発をして、最終的にその開発したものがちゃんと実証されるというところまではやりたいと思います。それが建物になるのか、最終的にこういうもの開発しました、ほかの市町村も含めていろんなところに波及してもらうような内容になるのか、その辺は今後ちゃんとしっかり詰めていきたいと思います。

以上です。

○委員（松田兼宗君）　たくさんあるのですが、よろしいですか、時間的に。

○委員長（伊藤 昇君）　何件もあるのでしょうか。

○委員（松田兼宗君）　はい、あります。

○委員長（伊藤 昇君）　そうしましたら、ここで昼食のため暫時休憩いたします。1時20分まで休憩いたします。

休憩　午後　0時07分

再開　午後　1時20分

○委員長（伊藤 昇君）　休憩前に引き続き会議を再開します。

先ほど林業総務費で答弁保留となっておりました山火事予防巡視の件につきまして農林課より答弁したい旨の発言ありましたので、許します。

○農林課長（寺澤英樹君）　お答えいたします。

山火事予防巡視につきましては、町内を8つのエリアに分けて8人の方にご対応いただいております。いずれも巡視日数は19日分、巡視期間は一部の地域を除き4月11日から5月31日までとなっております。

以上です。

○委員（河野文彦君）　今ご説明聞きました。私は、この巡視活動というのは必要であるし、これからも絶対続けてほしいし、今聞いた説明の中では逆に足りないのではないのかなと思うぐらいなのです。それで、4月11日から5月31日だと春先なのですか、これは。けれども、例えば空気の乾燥してくる秋口だとか、広葉樹ですと葉っぱが落ちたあたりだとか、その辺のほうは山火事って怖いのかなと思ったものですから、逆にその辺をなぜ巡回しないのか。

あと、山火事の防止のための巡回というところで、どういうところに着目して巡回していただいているのか、火の粉が上がっていないかなというだけで見て回っているのではないと思うのです。例えばこういう危険性があるとか、そういうチェックも大事なかなと思うのですけれども、どういうポイントに着目して巡回していただいているか、お願いします。

○委員長（伊藤 昇君）　暫時休憩します。

休憩　午後　1時22分

再開　午後　1時24分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課長（寺澤英樹君） お答えいたします。

まず、基本的に春に森町林野火災予消防対策協議会、こちらのほうで消防さんなども交えて話合いが持たれます。その中である程度この期間でこういう形で巡視してくださいということの話合いが持たれます。以降、先ほど言われている着目点はどこを基準に見ているのかということなのですけれども、巡視ですから、日々の変化を目視で確認するというようなことしか具体的にはお伝えできないのですけれども、もしそこまで詳細なルールとか、そういうものがあれば資料をある程度探した上でもう一度お答えさせていただきたいと思います。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） それでは次に、午前中に引き続きで目 4 森林環境事業費、質疑ありませんでしょうか。

○委員（松田兼宗君） まず、給料のところの林業専門支援員給料というのがあるのですが、林業専門支援員というのとは一体何なのか、どういう仕事をするのかについてお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

この林業専門支援員ですけれども、今年度から採用する職員であります。求める人物像としては、地元の林業、森林のことを詳しく知っている方、なおかつ森町の町有林を森林経営計画というものをつくって計画的に森林、林業やっているのですけれども、そういうことにも精通している方ということで求めて採用していこうというふうに考えております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 具体的にどういう仕事、今の説明だと分からないのです。具体的に何をやるのか、森林計画だってあるのは分かるけれども、実際に言葉が専門支援員ですから、林業専門支援員という書き方していると林業全般ということになるのか、それは民間も含めての話なのか、その辺が全然分からないのです、具体的にどういうことをするのか。林業全般といっても民間もあるわけですから、町有林だけの管理をしてもらって話なのか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

基本的には、町有林の管理というところでのサポートというのが大きいのですけれども、町内の民有林も国有林もありますので、そういった全般的にフォローしていただくということにはなるかと思えます。具体的な仕事内容ですけれども、今年度から私有林の整備事業始まります。今までは、公有林って形で国の補助金使っていれば道が検査等やってたのですけれども、今回の私有林の整備事業に関しては町での予算になりますので、町が検査をしなければいけないです。なので、そういうところの経験がある方という形で募集、

仕事内容としても検査員としての知識がある方という形になります。

以上です。

○委員（松田兼宗君） ちょっとまだ分からないですが、例えば森林の管理というのは植栽から始まって下刈り、そして間伐とかって入っていくわけです。枝払いとかという形でやっていくわけです。そういうのを含めて今後町の事業としてやっていくわけなのだけでも、それはそういうのを管理するというか、現場を見て歩くとか、そういうことも含めての仕事なのだろうか、どうも見えてこないのです。だから、ふだんこの人はどこにいるのか、役場で椅子に座っている仕事ではないわけですよね、と私は思うのです。その辺がどうも見えてこない、もう少し説明をお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

基本的に事務職員になりますので、専門支援員かもしれないですけども、役場の職場にいてこれまでの経験をサポートしてもらおうというのが大きな仕事になります。ですから、実際に枝打ちしたりとか、下刈りしたりとか、実際の作業員ではないです。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 別なところでお聞きします。委託料の北海道立総合研究機構森林研究業務委託料で151万5,000円、この説明資料として46番が上げられているわけですが、木造公共施設森町モデルについてのところですか。これを見ていると、どうも分からないことがいっぱいあって、令和7年度の事業の中で町有林実態把握ということが書かれているのだけでも、今さらという気はするわけです。今までやっていなかったのですか、これというふうに思っている部分があるのと、それがどういうことなのだと。さらに、事業目的に資源解析やシミュレーションを活用した計画的な管理と安定的な木材供給を推進するって書いています。安定的な木材供給というのは、誰のものをどこの誰に、そして誰が管理するのですか。どうもその辺が見えてこない。私に言わせると、林業関係の企業も含めて考えているのか。今までのやっていることというのは、いろんな材料を、新しい材料を作るというか、そういうことばかりやっているわけです。それというのは、民間サイドのもし企業とすれば、3年も4年もかけてやるような仕事ではないです。最終的には起業化していく中でそういうことを視野にあってやっていくべきだと思うのですが、そういうようなことはどうも見えてこない。そして、次年度以降のこれから先、4年過ぎて7年も8年もかけて最終的な9年度に森町モデル実証実験棟を建てると、それでおしまいなのですか。どうもやっている事業の目的が見えてこないのですが、まずその辺でお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、今回森町モデル事業が拡充したということで捉えていただきたいです。これまで松田委員おっしゃるとおりどちらかというと川下というか、産業のほうに目がけて事業取り組んでまいりました。ですが、今年に入りまして山の状況が結構大きく変わってきています。2つありまして、1つが森林調査簿という町有林をまとめている冊子があるのです

けれども、例えばトドマツが50年生で間伐何回やっていますとか、そういうことを全部書かれている調査簿という資料があるのですけれども、その中の人工林のトドマツが実態とちょっと合っていないのではないかと。要は調査簿上という、これが一つの目印というか、物差しになっているのですけれども、それが天然林化していてトドマツが本当にこの蓄積があるのかどうかというところが今問われています。なので、まずはその実態を調査するというところがその形になります。もう一つ、今新聞報道でも結構ありますナラ枯れです。これまで東北までしか行ってないというところだったのですけれども、2年前からそれが松前で発見され、福島で発見され、知内まで来てという形で今年度は函館までいわゆる制限区域になるという形、森町はまだ制限区域に入っていないのですけれども、これまで高付加価値なナラ材は結構高く取引されているものになっています。それが今後一切出せなくなるとなると大きな問題になりますので、まずは今緊急的にこれを調べたいということで2つの点から森林の状況を確認するというで現状確認、現状確認するためにはいろんなやり方があるのですけれども、やっぱり初めてやることなので、研究機関のほうに知見をいただきながらやって進めたほうがいいかなと思ひまして、なので今回この研究費、委託料出ているところであります。内訳としては、北海道立林産試験場と、あと林業試験場という2つ研究機関がありますので、これまで林産試験場とはずっと研究はやってきたのですけれども、プラス森林の現状を確認するところの部分で95万円を林業試験場さんと2年間の契約、受託研究のほうで実態調査をしていくという流れになっております。取りあえずよろしいでしょうか。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 今町有林の実態把握の部分の話をしたのだと思ひているのですが、問題は令和9年度のところで最後のところに経済波及効果って書いているわけですが、コスト検証も含めて。これからすると、今まで7年もかけて経済波及効果を調べるのはいいのだけれども、実際にそれを調べるということは市場でどういうふうに入れているかどうかの問題だと思うのです。それを7年もかけてやるようなことなのだろうか。そして、ここで聞きたいのは、トラスを幾つか作って開発しているって書いているのだけれども、実際これ開発したものというのは市場でそういうような建物建てる時使われているのですか。使われなければ、経済波及効果なりというのは何もないということになるのです。だから、7年もかけて、民間だってそういうようなことは1年でやってしまうようなことなのではないのと私は思うのだけれども、どうもやっていることが分からないというか、それが実際に社会にどう還元されて、何回も言うけれども、経済的にどういうふうな影響を与えるのか、林業のどういう発展に寄与しているのかどうかというのが見えてこないのです、これだと。その辺なのです。だから、まずその辺で再度、その辺答えていただいていないので、その辺お願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、林業、要するに木材生産というのは、一度植えてから50年かかります。今の現状

からすると、人工林は成熟期を迎えていて、これはもう切り出さなければいけない時期に来ているのですけれども、切り出したところでそれを使う当てがないので、今でも山に眠っているという状況なのです。なので、森町モデル事業で森町にある材料を何か有効な手段で活用できないかということでこれまで研究してきました。この中で平行弦トラス、張弦ばり、そして今壁の実験やっています。なので、トータル的に1つの建物に対して供給できる体制がようやく整うような状況になっています。これ民間でやれっていったときに、研究でようやくこの2つのトラスと壁やっているというところは、やっぱり簡単にはそれだけに集中してやるということは民間としてもなかなか難しいと思うのです。うちの森町モデル委員は、まず設計者がいます、2人。建築家の2人います。なおかつ、構造計算できる大学の先生、そして林産試験場という材料の研究者がいます。そういった中でトータル的にそれぞれがそれぞれの知見を生かした上でできたものであります。なので、簡単にこれを開発するって私は言っていますけれども、なかなか簡単にできるものではないということだけはご理解いただきたいと思います。

なおかつ、先ほどの2つの問題あるということで実態調査するって形になっています。つまりは先はつくったけれども、今度は林業の実態どうなっているのかということももちろん大切なことで、これまで検討していなかったわけではないのですけれども、改めてやっぱり人工林の実態合っていないということが分かりましたので、なのでまずそれをちゃんと調査した上でしっかり何年にはこれだけの量が出てくる、なのでこれをどうやったら価値を上げて売り出していけるのかということをしミュレーションをして、なおかつそれを売り出すときにちゃんと価値がつけられるようにということでトラスなり、そういったものを開発していくということを検討していくということになります。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 半分分かったような分からないところがあるのですが、要するにこれだけの長い年限、令和9年度までの計画というか、実績と含めて書いているのだけれども、最終的に目標というのは一体何なのですかということなのです。というのは、それはなぜかという、さっき最初に言ったように事業目的の最後のところに安定的な木材供給を推進するということだと思のです。とすれば、そのためにどの程度までそこまでたどり着いているのかということだと私思うのです。ただ、これで言っているのは、町有林の木の話を行っているわけではないですよ、当然、と私思うのです。誰の木を、材木をどこの誰に売って話なので、安定的な供給をするということはそういうことなのだと思うし、それを誰が管理するのですか。町が管理するわけではないですよ。民間サイドの会社があって、企業があって、そこでそれは管理されるのではないですか、と思うのです。だから、今やっているこの事業というのは、何のためにやっているのか分からなくなってしまう。いろいろやっているのは分かるのです。頑張っているのは分かるのだけれども、それが見えてこないから、何なのだろう、これというふうに思ってしまうざるを得ないところがあるので、まだ時間がかかる話なのかもしれないのだけれども、その辺

を含めてもう少し説明していただければありがたいのですが。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

まず、この森町モデル事業が始まった経緯というところが大事になってくるかなと思いますので、3年前農水省の補助事業を受けて、そして国の補助金を受けてこの事業やってきました。ですので、町だけの利益に基づいて業務をするというよりは、どちらかというところと全体的、渡島管内、北海道、そういった形でこの事業が波及できるというところが一つの目標になっておりました。ですので、もちろん3か年の国の事業が終わったとはいえ、町有林の付加価値をつけて、どうやってほかの町にもそれができるように波及するかということも非常に重要なことだというふうに思っていますので、もちろん町のトドマツ、カラマツ、杉というこの3樹種が人工林としてあるということはすごく特徴的なことですので、それをちゃんと生かせるようなトラスなり、そういうことはイニシアチブはあると思うのですが、これは正直どこの町でもある程度できるというところもあることが全体的な木材生産の底上げになってくると思いますので、まずはそういった形で事業のほうは展開していきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 別なところですが、145ページの負担金補助及び交付金のところの森町私有林整備事業補助金、その辺のところ資料ナンバーでいうところの47番のところなのですが、私有林を整備する上でいろんな補助事業というのは国とか道でいっぱいでもないけれども、あるのですが、それと今回のとかぶる部分というのはあるのかなと思って、そして100万です、予算が。100万で何できるのだろうかというふうに思ったのです。相当な前のやったところの豊かな森づくり推進事業とか、町有林管理委託業務のところで見ると3,000万とか、そういう金額なわけです。そこからしてこの事業が100万で何ができるのというふうに見ていて思ったものですから、まずその辺が不思議に思っているところ。そして、補助対象というのは、事業主体というのは、民間ですよ。働きかけるのはいいのだけれども、それだけ意欲を持って森林の整備事業に関わろうとする事業として成り立たない、現実的に。20年、30年、あるいは40年も含めて先の話に対して投資するわけです。幾ら補助金があったとしても持っている山林の面積がどれぐらいで全然変わってくるわけです、その負担額が。幾ら先ほど10%、6%の自己負担があったとしてもそういう問題があるのだと思う中で森町私有林事業、そして100万の予算でどれほどのことをしようとしているのか見えてこないのです。その辺まずお願いします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

森町私有林整備事業の関係の質問だと思いますので、まずこの事業全く同じ事業で国と道が助成しています。つまり公共事業として毎年同じ負担額でやっている事業になっています。ですが、対象であります私有林の、森林組合さんになるのですけれども、組合員の山になるのですけれども、どうしても補助金が足りなくなって事業ができないという部分が散見されています。ですので、その部分を諦めないで次年度に繰り越すのではなくて町

としてそこを助成するという中身になっています。ですので、助成事業自体の中身は、全く国と道と同じになっていまして、プラス作業員が冬場のほうの事業をするのであれば除雪費用が上乘せできるという、オンできるということが国と違うところであるのですけれども、基本的には中身としては一緒に、それを補うというか、サポートする、要するになくなってできないものではなくて、町としてその分を直接やるという内容になっております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） この補助対象というのは、植栽の部分は含まれていないですね。というよりも、森林環境譲与税自体が植栽に関しては認めていないはずだと私は理解していたのですが、だからこの部分に焦点を当てた形で植えた以降の部分でやるのかなと思っているのですが、そういう理解でよろしいのでしょうか。

そして、森林環境譲与税、これ多分令和元年に出されたやつなのだけれども、当面の5年間の森町の環境譲与税の活用に向けた基本方針の中でまとめてあるのです。それ令和5年までをめぐるという形で作ってあるのだけれども、これ以降のものできているのだろうか。そして、その中にはこれも含まれた形で、配慮された形で更新で新しい基本方針というのはつくられているのでしょうか。

さらにもう一つ、いろんな環境譲与税の形で事業はやるのだけれども、それというのはホームページ上で公表された形になっています。必ず公表しなければならないと。ただ、私見ている限り、それというのは予算書にしか載っていないです。これはないだろうかと私思うのです。実際何をやったか、あれ見ただけで分からないです。今後その辺を含めて、モデルをやるのはいいけれども、宣伝しなければならないわけです。全部森林組合に投げってしまうという意味でやるのですか。一般の意味で公募をしなければ意味がないとすれば、そういうホームページとかで森町がどういうことをやっているのか、こういうような森町モデルも含めて私有林整備事業をやっているのだということが見えてこない。だから、そういうことも含めて基本方針というのは新しく作り直しているのか含めてお聞きします。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えします。

まず、森林環境譲与税が植栽とかに使えないのではないかとかというお話だったと思うのですが、基本的には例えば学校とかで植樹祭を開催するという形になれば、植栽、要するに苗木を買うことは全然問題ないです。ただ、国の事業として豊かな森がありますので、潤沢な予算があるので、それを余らせてまで森林環境譲与税使うのはどうかという、要するにもともとある既存の事業を振り替えるということは森林環境譲与税駄目なのです。なので、基本的には豊かな森で対処できるものであれば、それを使うという形になっております。

あと、5年間の基本計画ということなのですが、昨年度で切れております。基本的には、森林環境譲与税を初めて事業としてやる上である程度の指針をつくりなさいとい

う形で示されて5年間の計画という形で出したものであります。ですから、一応今後もど
ういう形でやっていくのかというのは示すべきだと思うのですが、基本的にはスタンスと
しては変わらないということで、改めて5年間の計画を立てることもしなくてもいいかな
というところは考えておりました。

プラス毎年森林環境譲与税の使途を公表しなさいということで、こちらの公表のほうは
ホームページ等でやらせていただいています。確かに中身がちょっと分からない、言葉だ
けではちょっと何やっていたのか分からないというご指摘だと思います。これは、結構ほ
かの自治体のほうからもそういった話も出ておりますので、当町としては次年度からは全
部の事業を載せるって難しいと思うのですけれども、ある程度絞った形で内容を公表して
いこうというふうに考えております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 私も何点か、まず委託料の地域林政アドバイザー業務とあるので
すけれども、これはどういった方に、どういった団体にどういった内容の業務を委託する
のか、まず教えていただけますか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

こちらの林政アドバイザー、2年前から始めておまして、目的は森林所有者の意向調
査のフォローアップをしております。これまで125件の意向調査を確認した内容に基づいて
森林整備をやりたいと思っているところに対して直接行きまして制度の説明とかを森林組
合さんと一緒にやってきております。なので、これは継続してフォローアップとしてやっ
ていく委託事業となっております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 別件で、資料ナンバーからいきたいのですが、46番の木造公共施
設森町モデルの資料の中から質問したいのですけれども、事業概要の中の③番の後ろのほ
うにナラ枯れ被害への調査研究というところが記載あります。先ほどの説明の中でもあっ
たように、ナラ枯れに関しては全国的な問題として北海道にもついに来たかというような
状況だというのは私も理解しています。それで、まず質問したいのが、432万円の今回の予
算の中でナラ枯れ被害の調査研究のために実際どの程度割かれるのか、予算として、どれ
ぐらい使われるのか、これ全体の予算だと思うので、この中でナラ枯れの調査研究に幾ら
ほど含まれているのか、概算でいいです。大体これぐらいですというだけでもいいので、
教えてください。

それと、今回の資料説明でいきますと、この事業の目的というのはそれこそ針葉樹の特
徴を生かした技術開発とか、そういうところなのかなと思っているのですけれども、なぜ
ここにナラ枯れ被害の調査研究が入ったのか、そこをまず説明願えますか。

（「ちょっと待ってください」の声あり）

○委員長（伊藤 昇君） 暫時休憩します。

休憩 午後 1時55分

再開 午後 1時56分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

この全体事業の中でまずナラ枯れに対する費用どのぐらいかかっているのかということだと思っておりますけれども、それは林業試験場さんとの研究で行っていくことになりますので、研究費も全体的な研究費になりますけれども、91万5,000円になります。ただ、それはナラ枯れだけではなくて町有林全体の現地調査って形になりますので、その内数という形になるかと思えます。すみません。

○委員長（伊藤 昇君） 暫時休憩します。

休憩 午後 1時57分

再開 午後 1時57分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○農林課参事（佐藤 司君） すみません。お答えいたします。

なぜナラ枯れがこの項目に入ったのかというご質問だったと思うのですが、今回先ほどちょっとお話したとおり人工林の天然林化ということと、あともう一つ、このナラ枯れという問題が大きな問題だなということがあったので、まず森町の町有林が実際どういう状態にあるのかというのをどのようにして調査すればいいのかなというところで相談したところ、林業試験場さんでこういった知見があるということだったので、この2つを併せた形で調査していくという内容になっております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 資料では、ナラ枯れ被害への調査研究というような記載ですが、今のお話聞いていると天然林化したナラの状況調査ということになりますか。こうやって被害への調査研究って書かれると、実際に例えばまだ森町では被害は確認されていないって私は伺っているのですが、実際に調査で山の天然林化したところもあるのかもしれないけれども、天然林を歩いて被害がないかというのを調査して歩くのかな、そしてもし被害が出ているときには、どこで調査研究できるか分からないですが、そういったところをするのかなというふうにちょっと思ったのですが、今のお話を聞いていると人工林が天然林化してナラの木が生えているものの調査ぐらいなものなのか。先ほどの説明を聞いていると、そういうふうに感じたのですが、いかがですか。

○農林課参事（佐藤 司君） すみません。お答えいたします。

まず、天然林化というのは、トドマツ人工林が実際に行くとトドマツが生えていなくて違う木が生えているというのが散見されたということでトドマツの、トドマツだけではな

いのですけれども、人工林の実態調査をする。もう一つ、ナラ枯れのほうは、現在上空から枯れているというのがはっきりしていればいいのですけれども、なかなか上で見ていると陰になっているところとか、そういうところにもナラ枯れが結構発生していて実際森町にも絶対ないとは言えないような今状況になっています。ただ、被害区域の中では外されていますので、もし区域になってしまったときには本当に出せなくなってしまうということがあるので、今のうちに調査をしてナラ枯れを発見するというよりはナラを発見したいのです。実際にやっぱりナラ材というのは天然林になっていますので、天然林の中にナラを発見するというのは非常に難しく、それをなるべくドローンとかで視点距離を低くしたところで調査をして、ここに天然林のナラがありますと、ある程度ドローンであれば材積まで出てきますので、例えば100年とか150年とかのナラ材がナラ枯れになってしまったら、これももうゼロになってしまうのです。なので、今の現時点で少しでも価値のあるナラ材を択伐をして、そして価値のある材料にちゃんと出していくというところを次年度やっていきたいということになります。

以上です。

○委員（河野文彦君） 今ご説明いただいたそれこそ調査を本当にしていただければいいのなら、大変素晴らしいと思うのですけれども、先ほどほかの事業と含めてこの部分に関しては全体で91万5,000円というような説明があったかと思うのですけれども、その費用でできるのですか、本当にそこまで。これちょっと厳しい言い方かもしれないけれども、ここにナラ枯れというキーワードを取ってつけたようにしか見えません。本当に真剣に、もちろん真剣になっているのは分かるのですけれども、もっと力を入れてこのナラ枯れの被害の調査研究、そして何かできるのであれば防止策というところを真剣にやっていかなければならない事態だと思うのです。ですから、僕が一番言いたかったのは、この森町モデルの資料の後ろに一言二言載せるのではなくて、これだけで1つの事業ぐらいの意気込みでやってもらいたいというのがあって質問しました。先ほど91万何がしっていった予算の中で先ほど説明していただいたような調査、ドローン使ったとか、そういうことって本当にできるのかどうかというところをもう一度質問させてほしいのと、あとこれ令和8年度の計画の話なのでしょうけれども、ナラ枯れ利活用ってどういう活用なのか、そこも教えていただけますか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えいたします。

実際に91万5,000円でこの事業ができるのかというまず質問だと思うのですけれども、それはこれ林業試験場さんと2年間でやっていくということで2年間契約になっています。ですが、今年度実態調査をした中でいろんなハード整備も必要になってくると思います。例えばそれを解析するソフトとか、パソコンとか、そういったものが多分次年度から必要になってくるかなというふうに思いますので、この金額だけで収まるわけでは次年度以降はないと思います。

あと、少し安くなっている理由としては、ドローン調査にしても既存で農林課のほうで

ドローン持っていますので、それを活用するという形になっていますので、わざわざそれを借りたりとか、もしくは業者にお願いするとかではなくて、研究員が自分たちの農林課の持っているドローン使って、それをちゃんと確認した上で調査するという形になりますので、そういった少し安くなっている理由というのは、あと研究機関でありますので、何か利益をもうけるわけではないという、調査目的ということもありますので、民間とは金額は安くなっているかなと思います。

それと、利活用に関してですけれども、今年度に関しては調査が一番の目的ではあるのですけれども、ナラというのは本当に今価値がすごく上がってきていますので、そのナラを何とかたる材に活用できないかというところで今検討している最中でありまして。そのナラを使ったウイスキー事業というところに展開していきたいというふうに考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） 別件ですか。

○委員（河野文彦君） 今の。

○委員長（伊藤 昇君） 3問目だったと思うのですけれども、よろしいですか。どうしても聞き忘れとか答弁漏れあれば。

○委員（河野文彦君） 先ほど私ナラ枯れ利活用という部分で質問したのですけれども、たるに利用するってお伺いしたのですけれども、僕のイメージですよ、ナラ枯れ利活用だと枯れてしまったナラを何か活用するのかなというふうにこの文章から読み取ったのですけれども、まさか枯れた木を持ってきてたるになんかできないですよ。その辺もう一度説明願えますか。

○農林課参事（佐藤 司君） お答えします。

ちょっと言葉の扱い方がまずいという、あくまでもナラ枯れになっているものを活用するのではなくて、ナラ枯れの被害を食い止めるための、実際にまだナラ枯れになっていないものを活用するということになります。ナラ枯れになってしまうと、もう外にも出せなくなるし、自分のところで燃やすしかないという状況なので、何とかその前に活用するというところで利活用というふうになっています。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかに質疑ありませんでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、144、145ページ、項3水産業費に入ります。

説明員交代のため暫時休憩します。

休憩 午後 2時06分

再開 午後 2時08分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

144、145ページ中段から146、147ページ中段、項3水産業費、目1水産業総務費、質疑ありませんか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、146、147ページ下段から148、149ページ上段、目2水産業振興費、質疑ありませんでしょうか。

○委員（斉藤優香君） 資料ナンバーでいくと48の負担金及び補助金のところで資源増大対策事業補助金というところで投石とかのことなのですけれども、この効果のほどどうなっているのか。地元の漁師さんに聞くところによると、あまり効果がないって言われているという話を聞いたのです。それで、効果があるように多分考えられて投石はしていると思うのですけれども、今回の投石によってどのぐらいの効果があると見込んでいるのかという、効果というか、ところを教えてください。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

資源増大関係の投石のお話でありますけれども、投石する場所については両漁協で把握しております母藻の近くに毎年投石して新たな藻場を造成するという取組を行っております。ちょっとずれますけれども、執行方針にも書きましたけれども、そういった効果がありましてこのたびブルーカーボン・クレジット申請にも至っておりますので、効果が全くないというわけではなく、一定程度の効果があると認識しております。

以上でございます。

○委員（斉藤優香君） 昆布のつきもいいということになりますか。何か昆布漁師さんに言わせると、なかなかこれから昆布漁をしていくのは大変だというようなお話も聞いていますけれども、やはりこれで一定のまた投石することによってまたその後に出てくるサステナブルチャレンジの、それも効果があってやはり続けていくということになってきますでしょうか、お願いします。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

小さい頃海に入って昆布わらがいっぱいあったのですけれども、それが今確実に減ってきております。そういった中で投石をしなければ、その減少していくスピードというのがもっともっと加速すると思っておりますので、この事業については継続していく必要があると考えております。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 別件です。同じ箇所になるのですけれども、未利用資源活用試験事業、これウニになりますか。これの効果、去年の実績というか、町長も今回の執行方針の中でつくり育てる漁業へと変わっていくという利活用していくようなお話が出ていたと思うのです。ウニでこれからも一本でやっていくのか、それともほかの漁業にもと考えているのか、そしてウニの効果をどの程度まで見込んでこれ投資していくのかというところをお願いします。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

未利用資源活用試験事業でありますけれども、いわゆる駆除ウニを陸上養殖して蓄養して大きくするという事業でありますけれども、令和6年度につきましては生存率53%で約3,550個を出荷してございます。ただ、この令和7年度予算に計上しておりますけれども、先月末、2月末に行われました森漁協の理事会におきましてやはり採算面でウニのこの事業がなかなか収支が合わないということで令和6年度をもって終了するというお話を聞いております。ウニに関しては、そういった状況であります。当然その空いた施設につきましては今後の利活用も検討してはいるというお話も聞いておりますので、今後そういったものについて次何をやるかということも一緒に考えていきたいと考えております。

以上でございます。

○委員（斉藤優香君） ということは、この事業は今までやってきたウニということではなく、次に何をやるのかなということで予算を取っているということですか。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

予算要求の時点では、ウニを継続する意向でしたので、ウニということで予算計上しておりますけれども、先ほど申しあげましたように2月の理事会でやらないということに決定しましたので、何かほかにやることがあればまた皆さんにお諮りしてこれを活用するか、これをやめてまた新たな科目で起こすかというようなことはまた改めて検討していきたいと考えております。

以上でございます。

○委員（斉藤優香君） 漁師さんありきなのですけれども、町として目指す漁業としてはどういう方向、やはり陸上養殖に力を入れていくという方向になるためにこの予算をまだ保存しているということになりますか。

○水産課長（岩井一桐君） 保存しているといいますが、ここに至るまでの過程でやらなくなってしまったものですから、保存しているというか、ちょっと答弁に困るのですけれども、陸上養殖についてはホタテの状況もこういう状況でありますので、いずれかの時点で検討する機会は来るのかなと考えております。

以上でございます。

○委員（山田 誠君） 149ページ、先ほど話あったように資源増大対策事業費の中で昨年より120万ぐらい少なくなってきた、それで私がちょっと危惧しているのは課長あたりも耳に入っていると思うけれども、今年度令和7年度には天然貝の採取が難しいと、中止になったというような話も聞いていますけれども、森町は何ととっても基幹産業は漁業なのです。だから、もう少し資源の増大を図るような資金を提供して漁協さんに頑張ってもらわないと駄目だと思うのです。行く行くは後継者もいなくなるというようなこの前の話もございまして、少子化対策としても重大な事業なわけだ。ですから、これは思い切って森町の一番の政策的な問題として水産業の活性化、発展を図っていくべきだと思うのだけれども、課長としてどう考えていますか。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

機会あるごとに山田委員のほうからそういったエールをいただいております。当然事業を行うに当たりましては漁協の負担というのも必ず伴ってまいります。そういった中で最大限やれることを今後も継続して検討していきたいと考えております。当然山田委員おっしゃるように漁業の町でございますので、将来のためにも引き続きこういった事業は取り組んでいきたいと考えております。

以上でございます。

○委員（山田 誠君） 結局は、漁協さんが停滞すればどこに影響が行くといったら、必ず水産加工業に行くわけです。この道南の水産加工業、特に森、砂原については優秀な加工屋さんが多いわけです。そこに働く、稼働する女工さんも相当数いると。そして、人手不足なものですから、外国からも入れてやっているというような状況なので、これ森町の経済から見ても相当数の比重を占めているわけだから、これをやっぱりむげに予算を縮小した対策をするべきでない。私は、これ反対だと思うのです。だから、先ほど言ったように、これ駄目だ、あれ駄目だでなくて、駄目でもいいからどんどん、どんどん資金を投入しないと増えていかない。だから、養殖漁業も稚貝はもう来年は駄目だよと、耳づりはないよと、こうなっているわけだから、それらのものを含めてやっぱりそういうふうにならないような、なったらこちらのほうをやると。前にも言ったように、組合さんにも時間があつたら野付の漁協さんのほうに研修に行きなさいって言うておいてください。あそこは、階層区分をやっているわけだから、それでいつも大体同じような収入があるというようなことですので、森町の漁協さんもそういうふうな格好になるようにひとつ課長のほうから指導していただきたいなと思います。いかがでしょうか。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

まず、今年度の予算規模が縮小した理由といたしましては、山田委員おっしゃるように今年つるす稚貝が減ることで砂原地区の地まきに回す分のホタテが減ったことで、その事業量が減ったということで事業費が減っております。そういった中でも地域にもたらす経済効果というのは、水産業、水産加工業、ひいては運送業ですとか各商店に及ぼす影響は非常に大きいと考えておりますので、当然漁協さんと連携しながら両輪となって地域の海を守っていききたいと考えております。

以上でございます。

○委員（河野文彦君） 資源増大のところで、以前は渡島支庁の直轄であつたり、沿整でもやっていたし、築磯事業というのはこの森の沖合で相当数行われていたわけです。築磯事業で造成された藻場というのは、森の沖合というのは砂の回りが早いものですから、ずっとあるわけではないのです。やっぱり定期的に新たに投石事業しないと砂に埋もれてしまうという実態がかなりあると思うのです、全ての場所ではないですけども。そういった中で森町として行われているのですけれども、やっぱり私もまだまだ規模が足りないのではないかなというふうに思うのです。だから、今年度はもうこの予算でいこうというこ

とでしょうけれども、今回の予算というのは例年とさほど変わらない築磯の部分なのですが、その効果、過去何年間の実績があると思うのですけれども、これでまた同じ規模でいこうという判断したその要因というのか、今までの効果も含めて、その辺をご説明願えればと思うのですけれども。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

まず、事業量に関しましては、両漁協から上がってきた数量を基に予算要求してございますので、両漁協といたしましてはこの数量で一定程度の量が確保できるというような認識であると考えております。それらに加えまして、サステナブルチャレンジ事業でも量は決して多くありませんけれども、両地区に800立米ずつ自然石の投石のほかに人工石も入っておりますので、そういったことももっともっと利活用しながら、当然漁場の消失にも関係しますので、漁協との協議は必要でありますけれども、そういったことも一緒にセットとして考えていきたいと思っております。

以上でございます。

○委員（河野文彦君） 今組合さんからの希望数量というふうに私は理解したのですけれども、ということはもしまだいけますよと言っても組合さんはこれでいいですって話なのか、それともこれ何立米か分からないけれども、もしこの倍いけますよって役場のほうが言ったら、組合さん、ではお願いしますってなるのか、そこは課長どう感じますか。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

ボリュームを増やすことによって当然漁協さんの負担も増えることになります。その辺の兼ね合いがつくようであれば、漁協さんとしてもさらなる増量というのは検討されるかと思っております。

以上でございます。

○委員（河野文彦君） 続けて同じ部分で、これ町長にもしよろしければお伺いしたいなと思うのですけれども、やっぱり藻場の増大というのは資源の増大であり、ブルーカーボンの課題に対してもこれは喫緊に解決しなければならない問題かなと思う中で先ほど申したように以前は道の直轄であったり、沿整事業であったりというのがたくさんあったのです。そういったものが最近はめっきり行われていないのです。そういった部分をどのほうに陳情なり要望なりという形で活動って行われているのかどうか、そこを教えてくださいませんか。

○町長（岡嶋康輔君） お答えいたします。

特別これに特化して当町のほうから要望というところは、それほど目立ったものはないのかなという反面、毎年毎年港湾整備に関して国交省の予算要求の際には全て港湾整備に係る効果というところでは漁港として利用しているその周辺の藻場ですとか、海域ですとか、産業の動向等々はやはりその効果として当町のほうから説明させていただいております。当然今回資源増大等々の事業、そしてまたサステナブル事業における民間企業との協働での事業等々に関しても、これは国交省、北海道のほうに開発の説明させていただいて

おります。当然省庁は超えるのですけれども、環境の保全ですとか藻場の造成等々はほかの自治体でも非常に精力的に取り組まれておりますし、また後段どこかのタイミングで説明のタイミングがあるかと思えますけれども、最近本当にブルーカーボンの認証等々も本日、昨日だったか、新聞等々でも報道ありましたとおり、非常に自治体としては注目している事業であります。そういったことから、総合的に自治体の負担、そしてまた今漁協の負担というキーワードも出ました。そういったところも緩和しながら、自治体に即して産業界がこういった事業をしっかりと取り組んでいけるような、そういった要望等々はこれから力強く進めていきたいと考えております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 別件で、未利用資源の利活用のところなのですけれども、先ほどウニの利活用試験に関しては令和6年で終わり、7年度はもう行わないというような説明だったかと思えます。これは、試験事業でありましたので、試験が終了して、その試験の中でいい結果だったのか悪い結果だったのかは報告は受けていませんけれども、結果が出た時点で試験は終了というところでは全然構わないと思えます。いい結果が出ないのにずるずると続けてやめるにやめれないというような形を取るよりは、きちんと結果を出せたので、試験終了というところは大変いい動きではないかなというふうに思って聞いていました。それで、令和7年度のこの予算立ては、直近になってやめるというのを伺ったので、ここには予算上げてしまいましたみたいな形に聞こえたのですけれども、7年度、あの施設って結構立派な施設なので、ほかにもいろいろ利活用方法ってあると思うのです。ですから、その辺この予算で許せる範囲内なのか、必要とあれば補正なんなり上乘せをしてでもあの施設しっかり利用してまた漁業の振興に資するような使い方をさせていただきたいと思うのですけれども、いかがですか。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

こちらの事業を4年前に着手するに当たり、相当の修繕料かけて始めた事業でございます。令和7年度からウニはやめるということでありまして、その当時直したものを利活用して、水温の調整器はついていないのですけれども、海水をくみ上げる機能はございますので、ズワイの活魚水槽にしてしけた日に出すことで高く売れるですとか、そういった効果がありますので、そういったものにまずは令和7年度は活用していくと聞いております。その上でさらに何か要望があるようであれば、それはその都度また検討しながら、必要であれば皆さんにお諮りしながらと考えております。

以上でございます。

○委員長（伊藤 昇君） ここで2時40分まで休憩とさせていただきます。

休憩 午後 2時28分

再開 午後 2時40分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○委員（松田兼宗君） 147ページの負担金補助及び交付金のところの一番上の漁業近代化資金利子補給費補助金とその下の北海道水産加工振興資金利子補給費の補助金と、これ185万と220万計上していますけれども、これ具体的にどこに対しての補助なのか、その件数があれば件数も含めて教えてください。

○水産課長（岩井一桐君） お答えいたします。

まず、近代化資金につきましては、漁業者さんが船を新造するですとか、機関を替えるだとかっていったものに対してお金を借りる際にそれに対する利子補給でございまして、森漁協では現在25名の方が借入れを行っております。あと、砂原漁協につきましては、同じく25件でございます。また、それぞれ漁協で貸し付けられる枠が決まっております、その枠を超える方が信漁連から直接お金を借りておりますけれども、そういった方が2名おります。あと、森漁協では新規で4件、砂原漁協では新規2件を見込んでの今回の予算計上としております。

あと、水産加工振興資金の利子補給でございまして、これは森水産加工業協同組合に対する利子補給でございまして。

以上でございます。

○委員（野口周治君） 個別の細目についてはありません。今浜、加工業を含めて大変だという中で全体として力を入れられるものだったら思い切って早く力を入れなければいけないタイミングが来かけている、ただ何をどうしたらいいかがまだ皆つかめていない、あるいは事業として営む人たちがそれほど体力を使っていいかどうかと色々な問題があるという中の政策判断の在り方として、私は去年と今年の予算比較しながら勉強してみたいのですが、配分は若干変わったりはしているけれども、構造的に変えたような感じがどうもしない、こういう在り方でいいのかなと、そこをどうお考えなのかというのを知りたいです。お答えできますか。非常にないものを聞いているのに近い質問で恐縮なのですが、仕事の組み立て方として町として水産業にどう向かおうとしているのか、もちろんメインプレーヤーではないですし、漁業協同組合もある、さらに大きなお金を動かすであろう国や道もある中の町ですから、町独りでということではないことは理解しているつもりですが、その中で森町として何をしようとしているのかということが、何を変えようとしたのかが読み取れなかったの、その点だけでいいのですが、お答えください。

○委員長（伊藤 昇君） 予算に対する質疑かどうかというちょっと微妙な部分でございまして……

○委員（野口周治君） そうなのです。これも絡むので、どうかなと思いつつながら。

○委員長（伊藤 昇君） その辺り……

○委員（野口周治君） 委員長の裁きにお任せしますから。

○委員長（伊藤 昇君） もしできましたら別な角度でご質問いただいたほうが、項目が何かとはっきり分かっているものであればあれなのですけれども、よろしいでしょうか。

○委員（野口周治君） なるほど、分かりました。結構です。

○委員長（伊藤 昇君） よろしくお願ひいたします。

○委員（松田兼宗君） 別件です。先ほどから議論になっている資源増大対策事業補助金のところなのですが、森と砂原の漁協の違いというのが1点だけ、ホタテの稚貝の放流だけなのです、するかしないか。これというのは、各漁協からの要請という形でやっているのでしょうか、今年の場合は先ほどの説明を聞いていると稚貝が少ないから放流までできないみたいな話も言っていましたけれども、その辺はどうなのでしょう。実際にそうなのか。そして、ほかの全体の放流事業とかやっていて海の状態がどういうふうになっているのかということを見るということはあるのでしょうか。というのは、私最近ある森のほうの人から天然貝もらったのです。そうすると、今までにないぐらい貝の状態がよくない、こんなの初めてだぐらいに痩せている状態なのです。ということは、稚貝を放流して全然効果がないのではないのというふうに思ったりもしたものですから、最初思っていたのは森と砂原の部分の違いというのはそういうのもあるのかなと思いながら見ていたけれども、今年の場合は稚貝の部分が少ないからという話を言ったので、その辺も含めて再度どうなのかをお聞きしたいのです。

○水産課長（岩井一桐君） 答えいたします。

まず、ホタテの稚貝の地まき漁業につきましては、砂原漁協が許可を取って行っておるところでありまして、昨年度は180万粒の放流を予定しての予算計上であったのですがけれども、先ほど申しましたように今シーズンは相当稚貝が減るということで半分の90万粒の放流を見込んでの予算計上としております。そういった中で委員おっしゃるように海洋環境の変化というのは相当進んでいるやに思います。そういった中で数年前に湾内3か所に高性能ブイを入れて常時データを取りながら分析をしている状況でありますけれども、水産試験場で行ってはいるのですが、まだ突出した異常といいますか、明らかにおかしな数値が出ているようなところも特段なくて、今はまだデータを蓄積しているような状況にあります。

以上でございます。

○委員（松田兼宗君） そうすると、今調べている調査状況というのは、このやっている事業というのはかなり前からやっているのだけれども、そういう状態になっているから、やり始めたということなのだろうか。過去から積み重ねて海の状況を把握しようと、この放流事業との絡みでなくても構わないのだけれども、調査、海の状況を把握するというのはやっているという理解でいいのですか。

○水産課長（岩井一桐君） 答えいたします。

以前から人力で採水して水質の分析等々行っておりましたがけれども、それこそ平成28年、29年あたりの大量へい死ございました。それを契機に湾内に高性能ブイを入れて分析が始まったというような状況であります。

以上であります。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、目3水産施設管理費、質疑ございますでしょうか。いいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、148、149ページ下段から150、151ページ上段、目4排水処理施設費、質疑ございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、164ページをお開きください。164、165ページ上段、款8土木費、項4港湾費、目1港湾管理費、質疑ございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、128、129ページ、款5労働費、項1労働諸費に戻ります。説明員交代のため暫時休憩します。

休憩 午後 2時49分

再開 午後 2時50分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

今商工労働観光課長のほうから歳入で答弁をまだしていない部分があるということで答弁したい旨の発言がございますので、許します。

○商工労働観光課長（白石秀之君） 昨日の歳入で説明漏れございましたので、こちらで説明させていただきたいと思います。

昨日河野委員のほうから雑入において両道の駅の電気自動車の充電器の電気料の関係でございしますが、そちらの実績についてご説明させていただきます。両道の駅に設置しておりますEV充電器、こちらYOU・遊・もりの道の駅で190件、それに伴う電気料の補填分が4万4,525円、つど〜る・プラザ・さわらにおきましては42件の5,578円でございます。

以上でございます。

○委員長（伊藤 昇君） それでは、128、129ページ中段、款5労働費、項1労働諸費、目1労働諸費、質疑ございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、目2冬期就労対策事業費、質疑ございますでしょうか。

○委員（河野文彦君） 今年の話からスタートしたいのですが、結構早い時期から作業に出させていただいて僕が見ていた感じ、雪少なかつたものですから、スタートが、だから日数余すわけにはいかなかった……

○委員長（伊藤 昇君） もうちょっとマイクに近づけていただけますでしょうか。

○委員（河野文彦君） はい。結構早い時期から出して多分日数が終わってしまつて後半

雪がどんと降ったものですから、そのときにはもう作業がなかったのです。なので、作業する方々にその日数出させなければならぬという事情は分かるのですけれども、今回1,600万見えていますけれども、予定日数までいったけれども、その後大きなまた降雪があったというような場合はこれにプラス別な措置をしてでも、あとは出れる人、出れない人もあるでしょうけれども、作業を引き続きやってもらうようなことを考えていく必要があるのかなというふうに思ったのですけれども、というのは前半にきれいにやってもらったのですけれども、後半に多分もう予算終わったから事業終了したのでしょうかけれども、前半はきれいだったのだけれども、あの降雪の後に大分状況が悪いというところがたくさんあったのです。なので、必要とあれば、この1,600万のほかに措置をしてでも同じような水準を維持していくというお考えがあるかどうか、お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

本年、委員ご指摘のとおり、最初の1期目につきましてはやはり雪が少ないという状況もございました。そういったときには、町道の枝払い等の業務もお願いしてきているところがございます。また、2期目の途中に大雪降ったということで、2期目の作業員さんにつきましては大変苦勞されたのかなと思いつつも、やはりその雪が残っている状態ということでもありますので、そういったことが可能かどうかも含めて今後検討してまいりたいと思います。

○委員（斉藤優香君） 同じところなのですけれども、同じような内容になるのですが、町民の方からもやはり雪のないときの作業員の在り方というか、を問われているのではないかなと思いつつも、このたび枝払いというのも入りましたから、またちょっと変わってくるのかなと思うのですが、忙しいときにできないような仕事、何かほかのものも考えつつ冬期の就労、雪はねだけではないものも考えていきながらやっていく、もう少し就労対策というのであれば幅も金額も広げてもいいのではないかなって、冬場の対策として取っていくのであれば多くの人にいろんな仕事をやっていただくというチャンスになるということも考えられるのかなと思うのですけれども、いかがでしょうか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

本業務の内容につきましては、町道、歩道、また公共施設の除排雪が主なものでございまして、雪のないときには建設課と協議しまして枝払いの必要な箇所、そういった部分の作業に当たっていただいているというのが現状でございます。委員ご指摘のとおり、雪のない時期にほかの作業がないのかという部分でございますが、今後はそういった部分も取り入れるかどうかという部分も当課として少し考えていきたいなと思います。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。ありませんね。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、150ページをお開きください。150、151ページ中段から152、153ページ上段、款7商工費、項1商工費、目1商工業振興費、質疑ございますでしょうか。

○委員（斉藤優香君） 負担金補助及び交付金の中の森町創業支援事業補助金というところなのですけれども、前年度どれだけ需要があったのか分かりませんが、同じような感じで補助金が入っているのですけれども、ぜひこれ創業に限っていることなので、これからは事業継承も含めて支援していくという形がやはり担い手の対策になるのではないかなと思うのです。創業だけに限るとなかなか難しいけれども、事業継承していただく人にも支援していくという形は取れないのかというところをお願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、創業支援事業補助金でございますが、令和6年度3件の申請がございまして、3件に創業支援しているところでございます。ご質問の事業継承した際の支援事業ということでございますが、今森商工会議所、森町さわら商工会のご協力を得ながら事業継承に関するアンケートを事業者にとっております。そういったアンケートを基にどういった施策ができるのかというのも今後考えていきながら進めてまいりたい、そのように考えております。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 事業継承には、やはり国でもお金を出しているところもありますので、そこと補助メニューを見ながら町でやってあげれることを早期に取りかかっていたきたいなと思いますけれども、いかがでしょうか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

そういった国の支援メニューにつきましてもまずは実態を調査した上で今後検討していきたいと思っております。

○委員（松田兼宗君） まず、委託料のところですが、フィリピン・ア克兰州アテンド業務委託料ということで33万ありますが、委託の内容、今回フィリピンに行ってきた中で今後のやり方としては委託先にいろんなことをお願いするのでしょうか、その内容についてまずお聞かせください。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

こちらアテンド業務の主な内容でございますが、まずはやはり通訳に係る経費でございます。または、いろいろな視察先に出向くものですから、そういった視察先に行く際に運転手さんであったり、そういった方々に係る経費が主なものでございます。

○委員（松田兼宗君） 今の話だと、今後もまだ行ってくるのだというふうな認識でいいのですか。そしたら、補正で今後出てくるのだと。今回そういういろんな行く分のあれが出ていますか、ほかで。例えば旅費とか、そういうの。まず、それをお願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） ご説明いたします。

今回の旅費の中にもフィリピンア克兰州への旅費を含ませていただいております。この事業につきましても、今回2月に連携協定締結してまいりましたが、やはり今後この事業を進めていく上でフィリピンア克兰州との連携というのはまだまだ必要であると考えております。いろいろな課題も出てきている中で今後どのような形で森町に担い手を確保

できるか、また町で仕事をしやすい環境だということフィリピンア克兰州の方々にも分かっていただくというようなことは必要でございますので、継続して進めてまいりたい、そのように考えております。

○委員（松田兼宗君） 前回の補正や行って来た前の補正予算のときもそうなのですが、今回も今の話聞いていると行って来るのはいいのだけれども、実際に来た人の対応を全部前の説明では行き先の企業に任せている形になっているみたいな話を言っていますけれども、町としてどういう機能を果たすのか、ただ橋渡しをして、それで終わり、そんな無責任な話はないと私は思っているのです。とすれば、町できちっとした受入れ体制というか、森町についての説明をきちっとフィリピンのほうに説明できる体制を含めてきちっとした部分を窓口というか、そういうのをきちっと押さえていかなければまずいのではないかなと思うのですが、その辺いかがですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、受け入れるのは、やはり企業さんになると思っております。というのは、受け入れる企業の現状ですとか、そういったもので必要な人材というものを確保していくという事業でございます。町の役割としましては、そのマッチングというところをまず重点に置きまして、フィリピンア克兰州とこういう人材交流をしているという部分で受け入れやすい体制、スムーズに受け入れる体制というのはまずこの事業でつくり上げていきたい、その中で地域として外国人労働者を受け入れる際に町としましても多文化共生できる、そういったまちづくりというところもやはり今後は考えていかなければならないと思っておりますので、そういった部分も含めてまだ現地に行って交流しながら受け入れやすい体制づくり、こちらをまず構築していきたいと、そのように考えております。

○委員（河野文彦君） 負担金のところでU I J ターンの支援事業のところでお伺いしたいのですが、今回100万円という予算なのですが、ターンの形にもいろいろあって支給する金額も変わってくるかと思うのですが、今回の100万円というのはどういった形で何名とか、そういう想定していると思うのですが、そこ教えていただけますか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

100万円の金額でございますが、単身で1名来た場合の金額としております。こちらまず家族で帯同してこられる方がもし申請された場合については、追加で補助金が支給されるということになりますので、そこについては今後そのケースに応じて補正等考えてまいりたいと思っております。

以上です。

○委員（河野文彦君） こういうターンしてきてくれる方というのは、これからも重要で力入れていかなければならない部分であるというのは認識しているのですが、森町で今登録している業者さん何件になりましたか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、今登録している企業は2社になっております。その中で今お願いしている事業者さんが3社おまして、今後この事業を推進していくためにこれから町内の企業さんに登録していただけるようお願いで回ろうかなと、そのように考えております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 現在の2社というのは、何年か前に聞いたときと変わっていないなというふうな思いの中で、なかなかこれに登録するということはその会社のいろいろな事情がありますので、全ての企業が登録できるわけではないなというふうに私以前書類見て思ったこともある中で、やはりいろんな企業、いろんな職場がありますよというところをいかにたくさん紹介できるかが森町に目を留めてもらう一つの大事なところかなと思いますので、そこは改めてより一層力入れてプラス3社でなくて30社でも40社でも増やしていただきたいと思うのですけれども、いかがですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

繰り返しの答弁になるかもしれませんが、今後登録していただく企業さん多く募りたいと考えておりますので、そのためには一度当課としましても足を運んでお願いをしてまいりたいなと思っております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 別件で、委託料の活性化広場の調整池の伐採業務って出ているのですけれども、この9万8,000円の中で支障木の伐採だけなのか、プラス堆砂の除去も入っているのかをお願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

今調整池の伐採でございますけれども、まずは支障木、あとは草の撤去というところだけ今予算を計上しております。堆砂している砂の量ですとか、そういったものにつきましては現場まず伐採してみないとちょっと見えないところもございますので、その辺は作業終了後にまた現場のほう確認させていただきたいと思います。

以上です。

○委員（河野文彦君） この調整池を造った経緯は経緯で事情あるのでしょうけれども、あの駐車場の奥に結構な面積を取って、これがなかったらもっと大きく土地使えるのになというふうに思っているところもあるのですけれども、結局調整池を設置しなければならなくなった経緯というのは流路であったり、流末であったりの問題があると思うのですけれども、流末でいったらすぐ下に森川もあるので、流末に関してはそんなに問題ないのかなと思うのですけれども、流路を改良すればこの調整池も必要なくなるのかなというふうに思っていたのです。そういったところの検討ってされたことがありますか。そうなるのと、こういう伐採の費用とかも今後なくなると思うのですけれども。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

そういった対策については、今まで検討してきたことがございませんので、今後もし必要であれば検討も考えていきたいと思っております。

○委員（松田兼宗君） 負担金補助及び交付金のところの今回森町物産協会補助金が120万と前年に比べ180万の減になっているのですが、その辺をお知らせください、どういうことなのか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

7年度のまず物産協会補助金120万円にした経緯でございますけれども、予算要求の際に7年度にやる事業についてヒアリングをさせていただいております。今年度行っていた事業からやらない事業もあるということをお聞きしまして、そちらについては確認の上、この金額としております。しかしながら、その後物産協会内で会議が持たれたと聞いてございます。その中でやはり今年度同等の事業規模で実施していきたいというようなお話になったということでございまして、2月28日に前年度同額の補助金で同様の事業を行いたいという要望書頂いております。その内容につきましては、当課で今精査してございまして、今後補正予算等の対応も考えております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） ヒアリングしたという今言い方したのですが、そういう話はないって話耳にしているのです。さらに、物産協会だけなのかどうか分からない、ほかにいっぱいあるわけです。今の言い方だと、全部ヒアリングをして確認をした、どういう事業やるかとかというヒアリングした上で予算計上しているはずなのだと思うのだけれども、実際私が聞いているのは何もそういうのはなかったという話聞いているのです。それで、120万に減額されていたという話を言われて私も調べたら減額された形で計上されているので、その辺の食い違いがある。今後の在り方としては、必ずそういうヒアリングをした形で、各種団体によって総会の時期とかそれぞれ違う、役員会の時期とかそれぞれあって変わってくる部分はあるのでしょうけれども、そういうことも考慮した中でいろんなことをヒアリングする中で予算というか、補助金というのを考えるべきだと思うのです。

それと、もう一つ確認したいのは、ほかのところも確実にやっているという認識でいいのですか。ほかの団体の補助金も、それ再度お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、今ご質問ございました物産協会のヒアリングの件でございますけれども、こちらは予算要求の際の10月下旬だったかと思いますが、当課担当者と物産協会事務局の間でヒアリングをさせていただきまして、金額についてもこの金額で問題ないかという確認は行ってきております。その時点で我々としましては、物産協会の判断であるということでこの金額で要求してございます。事業を行う上で増額の際もそうですし、減額の際もそうですけれども、予算要求する際に事業の内容というものを裏づけとしてやはり我々も持っているということでございまして、そこら辺はしっかり確認してきてございます。

また、他の補助金につきましても要望書が出されている団体もございまして、あと例年同様の金額で計上しているという実態もございまして、今回の物産協会とのやり取りでございまして、そういった相違がないように今後は次年度に行う事業について要望書な

りとか、そういったものをしっかりもらえるような体制づくりもしていきたいなど、そのように考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、152、153ページ上段から154、155ページ下段、目2観光費、質疑ございますでしょうか。

○委員（斉藤優香君） 委託料の道の駅リニューアル計画アドバイザー業務委託料についてお尋ねしたいのですが、これ290万今回上がっているのですが、それも職員のための検討委員会のためということになっていますが、令和6年にリニューアル調査計画策定業務というので880万かけてやったものがたたき台になっていると思うのですが、この計画は計画までということで、予算のときには基本構想までこの中でいきますということだったと思うのです。大体役場のやり方と言ったら変ですけども、基本構想が出てきた段階で基本計画に移っていくと思うのです。この間の話合いの中でもいつやるか分からない、まだ先の見通しがついていないものを今話し合う必要があるのかということと、あと調査計画策定業務の仕様書の中ではアドバイスの実施回数というのが載っているのです。その中で月2回程度、1回当たり2時間のミーティングを想定して行うってなっているのですが、これをやっていたら今回の300万ぐらいの予算をつけなくてもこの中で職員の方たちとお話合いが持たたのではないかと思いますけれども、私たちも前回の予算のときには附帯決議をもってこの事業に対しての意見を述べさせていただいていますので、その辺りも加味されているのかということをお願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、道の駅リニューアル計画アドバイザー業務に関してでございますが、この事業につきましては令和6年度に行いました調査を基に庁内の検討委員会で今後の方向性を決めていくための契約ということでございます。ご質問にもありましたとおり、昨年調査につきましては調査計画というところでございますが、調査結果に基づきまして今後の方向性というものをしっかりとつくり上げなければ着手できないのかなと、そのように考えております。いろいろな側面から調査した結果、本当に一部改修がいいのか、建て替えがいいのか、または運営体制をどういった体制にしていくのかという部分で多くの課題と、そういったものが洗い出されたのかなと思っております。そこをしっかりと今後検討していかなければ、よい道の駅、そういったものにはならないのかなと思っております。通常に求められる本来の道の駅機能、そういったものも損なわず、地域振興施設として町の顔となるような道の駅をつくるためには今後まだまだ検討が必要だと、そのように考えてございます。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 答弁漏れが、月2回程度のミーティングはされたのか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） 失礼しました。月2回のミーティングでございませうけれども、こちらはいろいろな側面から調査をしていただいております。その調査結果に基づいて商工労働観光課とのミーティングは行ってございまして、まだ他課と一緒にミーティングを行うというような部分までには至らないミーティングでございました。また、附帯決議の部分につきましては、やはりいただいております附帯決議の内容をしっかりと今後の道の駅につなげられるような形で取り組んでいかなければならないのかなと、そのように考えておりますので、それも繰り返しになりますけれども、もう少し検討する時間って、そういったものが必要なのかなと、そのように考えております。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 880万かけたこの調査計画策定は、もう結果報告が出たということになりますか。それに基づいてまた方向性を考えていかなければならない、まだまだ考えていかなければならないとなると、まだまだ時間がかかるということになりますか。もうこの調査を依頼した時点で方向性が見えているという形の報告でないと意味がなくて、そのぐらいの調査を1年かけてやってまだ方向性が分からないというのもおかしな話で、そうであればその中でやはり必要な課というのは見えてきているはずなので、この1年の間にいろんなことが話せたのではないかなって私は思うのです。この1年が無駄になってしまっていないかなって、さらにまして庁舎内の検討委員会を立ち上げて1年かけて何を話してどうなっていくのかというのが全く見えないし、この間の報告会ではないですけども、ありましたよね、あの中に参加していただいた町民の方からもやはりいつどうなるのか、やるのかやらないのかも分からない話をずっと続けていくのはおかしいのではないかという話も出ていました。やはりいついつを目指して、それに対しての計画的であればいいのですけれども、まだ分からない、先が見えない中の今、では話合い、道の駅に必要な機能というのは決められているので、それを網羅しないことにはリニューアルも何もないと思っています。それが決まっている、ゴールが決まっているのにこれだけの時間を費やすことに何か意義があるのかなと思うのですけれども、お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

道の駅の整備、リニューアルにつきましては、リニューアルは考えております。ただ、そのリニューアルの仕方、あとは運営方法、そういったものについてはやはりまだまだ検討する余地はあると思っております。また、ワークショップにおいて町民の方々からたくさんのご意見もいただきました。そういったご意見をいただきながら、本来道の駅にあるべき機能、そういったものは間違いなく整備しなければならない、それにプラス地域振興施設としての町の顔としての役割、そういったものをいかに上手に取り入れていくのか、そういったものも考えていかなければなりませんし、やはり立地の部分もございませうし、オニウシ公園の付近にもございませう。そういった部分の立地の場所含めて今後公園との関係性だとか、そういったものも他課との協議の上、進めていかなければならないと考えてございませうし、また全員協議会でも説明させていただいた、ケース5つほど示させていただ

きましたが、やはりここを決めるところが一番大事な部分かなと思っております。安易に改修だけに莫大なお金をかけてしまう、またはかなりの財源がかかる建て直し、それを今すぐ行えるのかと、そういった部分につきましてはスピーディーにはやっていきたいと、そのようには考えておりますけれども、しっかりその辺を整理した上で検討していく必要はあると当課では考えております。

以上です。

○委員（斉藤優香君） であるならば、やはり基本設計に入っていくべきではないでしょうか。昨日の話でも、その前の一般質問の町長の答えでも基本設計までは行きたい、その後いつやっていくかというのはまたそれから考えるというようなお話もありました。まずは、ここで1年を無駄にせず、基本設計に行って、その後実施設計とかになるのはあれですけれども、ここでずるずると時間を延ばす必要はないと思います。基本設計の中で庁舎内の方たちの検討委員会を話し合っているのではないかなって、普通庁舎内の検討委員会で1年間使うというような町のやり方はちょっと見ていなかったものですから、あまりにも先延ばしであるのであれば、一回やめたほうがいいのではないかなって思います。これ本当にやりたいのであれば、やはりスピード感を持って基本設計までは行くべきではないか、この1年で。そうしないとまた、これ全然関係ない違う課がやったって言われるのですけれども、町民としては一回道の駅という構想が出来上がって新聞報道までなって、やるのではないかって期待感持っているのです。なのにやらなかった、また今回ワークショップをやってやるかやらないかどうなのかという中でやって、やりませんでした、また延びましたってなると、もう誰もワークショップにも参加してもらえない、また行っても結局はやらないのしょうってならないのですかという心配もあります、私は。皆さん町民は、そう思っているということも肌で感じていただきたいなと思います。いかがでしょうか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

繰り返しの答弁になるかもしれませんが、この業務を進めていく上で、今アドバイザー契約も含めてですけれども、今後道の駅をリニューアル進めていく上で一步を踏み出すところが一番大切な部分であると当課では認識しております。町民の求めるもの、あとは道の駅に必要な機能、そういったものをしっかりとやっ取り入れた道の駅にしなければならぬ、ですので先ほどから申しているとおりに建て替え、一部改修、そういった部分、または運営方法、そういったものについて一步を踏み出す方向性、ここが一番今大切なポイントなのかなと、そのように考えておりますので、今スピーディー感がないというご指摘でもございますが、その辺については早めに着手できるように当課としても取り組んでまいりますので、決して無駄な業務ではなく、そのような形で見ていただければなと、そのように感じております。

以上です。

○委員（河野 淳君） 同じくリニューアルアドバイザーの件でお聞きしたいことがあります。

ます。私もワークショップ参加して、多分日にちが違ったのだらうなとは思いますが、様々な課題と町民の要望というのが出ました。附帯決議の中では、建て替えも検討に入れろということだったので、しっかりその辺の部分は建て替えもしたらどうなるかというパターンも含めて示されていたと思います。どういうことを目指していくかということで、その整備の方向性とかがかなり変わってくるという部分もあり、既得で入っている方たちの部分とかもあるので、それをいきなり1年や2年でやってしまうと、その方の影響とかも考えながらやはり進めていかなければならないということを考えると、時間をかけているというわけではなくて、検討に検討を重ねていろいろな意見を出す必要があると思うのです。これ8回って書いているのですけれども、これ自体は回数は積算に入っているとは思いますが、その辺の部分詳細詰めるような形で内容は考えていらっしゃるのでしょうか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、年6回の検討会議というところがございますけれども、この中で検討委員会の中でまだまだ町民の方ですとか、そういったご意見を聞かなければならない場合もございますので、そういった検討委員会の中で行えるワークショップ、そういったものも考えてございます。

○委員（山田 誠君） 負担金、補助金の森町花いっぱい運動推進協議会の補助金、これももう少し予算的に多めに見るべきでないかなと思っております。といいますのは、昨年ようやく参加従事者に対してお昼の弁当が当たったというようなことで大変従事者も喜んでいたということなのですけれども、私毎年話ししているのはこの花いっぱい運動、これ約4キロありますけれども、品評会をやって順位を1位から5位ぐらいまでつけて、それに入った方々に対して濁川のほうに連れて行って慰労会をやったらどうかって毎年言っているのだけれども、さっぱり採用してくれない。これ四、五年前ですか、まだ前かな、内閣総理大臣賞を受賞しているわけです。それだけ有名なものであるというふうに私は思っているのです。町長も執行方針の中に砂原町との合併20周年記念の行事も多々あるわけなので、それも含めてもやっぱりもう少し見やすいやり方の中で花植えをさせるべきでないかなと、そういうふうに思っております。だんだん人口減少、それから高齢化になってきて従事する方もだんだん少なくなっているようでございますけれども、そういうもので、言葉悪いですが、つって頑張ってやっていただければなど。おかげさまで函館開建からも花がたしか半分ぐらいかな、提供があるようでございますけれども、先般私も函館に行ったときにタクシーに乗ったときにそのタクシーの運転手さんが函館に来る新婚さんを砂原の、この森町の花いっぱいの街道に連れてくるって話ししていました。それだけ知名度も上がってきているということなので、これをなくするわけにいかないだろうと、私はそう思っていますけれども、そういう意味でもう少しPR的なもの、または活性化のものをどのように考えているか、1つお聞きします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、花いっぱい運動の協議会内では、これまでもいろいろな施策を打ってきております。委員ご指摘のとおり、おとしはお昼御飯を用意したり、去年は4キロの道を少し集約して短くなってしまったという部分もございますが、植える方が少なくなってきているというところがまず一番の問題なのかなと思っております。来年度については、森高校の生徒さんが協力して花壇の割当てをいただきたいというお声も聞いておりますので、今後も花壇を絶やさず、誇れるフラワーロードということに協議会と今後も一緒になって協議してまいりたいと、そのように考えております。

以上です。

○委員（山田 誠君） これは、北海道広しといえどもなかなかやっている町村はないわけですね。一番あれなのは、釧路町が約2キロやっているのです。森町の4キロから見ると、やや半分なのです。それだけ今までやってきたわけなのです。これをますます活性化を図ってすばらしいなというような街道をやっばり維持していくべきだと、私はそう思っているのです。それで、予算的にも260万はちょっと低いなと、こう思っているのですけれども、やっばりその辺をもう少し付加して外部から来たお客さんもすごいなというようなこととなるような、そういうような街道をつくっていただければなと、私はそう思っているのですけれども、いかがですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

補助金額の内容につきましては、今後精査していろいろと何か対策等あれば考えてまいりたいと思っております。また、花いっぱい運動、フラワーロード、こちら絶やさずやっていけるような取組、こういったものも併せて考えてまいりたいと思います。

以上です。

○委員（東 隆一君） お伺いします。

森町の公式新イメージキャラクター制作業務ということで説明資料頂いています。森町誕生20周年記念事業の一環だと思うのですけれども、これ読みますと20周年で新たにというよりも、これを要するに起爆剤にしてみたら森を売り込むというような形なのだろうと思いますけれども、何体ぐらいを予定しているのか。それと、現在のキャラクターというのか、今現在の縫いぐるみもあると思うのです。それをどういった形で活用していくのか、全くそれをなくするのか。あと、何月頃からそれ開始して何月頃に大体制作が終わるのかという部分の制作順というのか、1次審査とかいろいろありますけれども、大体どのぐらいで制作が終わってお披露目ができるのかという部分もお知らせください。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、キャラクター何体かというところがございますが、1体でございます。既存のキャラクターでございますけれども、こちらにつきましては現在森観光協会のイメージキャラクターが2体おります。また、旧砂原町時代のキャラクターが2体ございまして、そちらをどうするかというのは今後観光協会等含めて協議していきたいと考えております。ただ、今回キャラクターを新たに制作するという理由に至った部分につきましては、今いる森観

光協会さんのイメージキャラクターの2体、こちらの着ぐるみ自体の経年劣化、こういったものがありまして、こちらを修理または改修、作り替えするのにも莫大な金額がかかるということと、また桜をモチーフにしたキャラクターのさくりんというのがあるのですけれども、そちらについては他の自治体で既に商標登録されておりまして、なかなかこれを生かしながら町のPRも難しいのかなと思っております。そういった部分で新町誕生20周年、こういった節目の時期に新たなキャラクターを制作して今後盛り上げていければと思ひまして、こちらの業務を考えてきたところでございます。

また、最終的にいつ頃出来上がるのかというところでございますが、今後公募しながらキャラクターを選定していきます。その中で最終的に着ぐるみができるのは、年度いっぱいかかるのかなと思っておりますので、あとはキャラクターの発表はできれば新町の式典の際にキャラクターのイメージ、そういったものはお披露目したいなと、そのように考えております。

以上です。

○委員（東 隆一君） キャラクターの制作の部分の応募とか、そういう部分があると思ひますけれども、桜まつりの行事に向けてそこで募集するのかなんとかって、そういううまく人が集まったときに森町がこういうのも今やるのですよということをアピールがてらやられたらどうかというふうには私思ひますけれども。

○商工労働観光課長（白石秀之君） この業務のまず初めの応募なのですけれども、5月くらいの広報で応募スタートさせたいと思ひておりますので、桜まつりの時期にこういった取組があるよということで来場された方にお知らせしながら応募いただくのも一つの手かなと考えております。

以上です。

○委員（齊藤優香君） 今の同じくイメージキャラクターなのですけれども、これに対しての費用対効果というのはどの程度お考えなのかというのと、あとPRツール制作ってなっていますけれども、何か作戦があつてなのか。根本的に20周年記念の行事とか関連することなのですけれども、全てがぎりぎり過ぎるといふか、結局20年に間に合っていない。町史編さんは、ちょっと課が違いますけれども、にしてもこのイメージキャラクター20周年ということにしても結局20年には間に合わない。この20年が来るのは、20年前から分かっていることで、どうせこういうことをやっていくのであればやっぱり1年前、2年前から企画しているということが大事で、今回のこういうことも全庁の職員が考えて企画を出し合つてとか、この先の20年につながるような行事とか事業にしていくという考えはなかったのか、お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、PRツールの制作でございますけれども、新しいキャラクターが出来上がることによつていろいろなノベルティーですとか、そういったものが制作できるのかなと考えております。先ほど申したとおり、商標登録できないものについては商品化できませんので、

このキャラクター出来上がりしましたら当然商標登録しまして、そういった関連の商品にも使えるようにしていきたいと、そのように考えております。

また、もう一点でございますが、20周年記念だからということで今回この予算上げさせていただいておりますが、既存のキャラクターが劣化しているというのはもう数年前から把握しております、いつかの段階では何かしらの更新が必要だということを当課では考えておりました。こういうイメージキャラクターでございますので、やはり節目の年、こういったときに何か事業として行えればいいのかと思っております、ある一定の計画といいますか、いずれこういう時期が来るのを見越していたわけではないのですけれども、こういう20周年という時期に新しいキャラクターを制作していくという、そういう考えで今回上程してございます。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 今どきやはりキャラクターでまちおこしをしようという考え自体がちょっと古いのかなって思うのです。さくりんが駄目であれば、くりたんがいるという、ましてやも〜りーくんもいるのです、森町には。そして、今回町長が執行方針でも述べられたように、町長はロゴマークをもって商品をPRしていくって言っているのです。その中でこの新キャラクターの出番があるのかなと思うし、あと商標登録の話になりましたけれども、くまモンがこれだけ全国津々浦々まで知られるようになったのは、商品がいっぱいできているというのはくまモンが商標登録をしなかったからだと私は思っていたのです。あと、例えばふなっしーとかというのも公認キャラクターではなくて盛り上がっていったというところもあって、森町がこの新しいキャラクターをどこまで使いこなせるか、今までさくりんやくりたんもほとんど知られていなかったという、先ほどもありましたけれども、キャラクターを使いこなしてまちおこしをしていくというのはすごく労力がかかると思うのです。それを責任持ってやっていく、この先20年やっていくという事業になるのかって思うと、ちょっと私は疑問が残るのですけれども、それで費用対効果としてキャラクターがその役目を果たすのかということももう一度お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

キャラクターの費用対効果でございますけれども、効果が出るように取り組まなければならないのかなとは思っております。その中で新たなキャラクターというものを売りに新町誕生20周年をまず祝いながら、今後キャラクターの効果、そういったものをいろいろな場面で発揮できるような場というのは我々としてもつくり上げていかなければならないのかなと、そのように考えております。

以上です。

○委員（斉藤優香君） 全町民挙げてお祝いをしたいということは、全職員も挙げて20周年をお祝いしていきたいという事業だと思うのですけれども、それであれば職員の意見とか、こういう企画以外のものとかもそれぞれの課で出していただくとかということはなかったのでしょうか。このキャラクター一本でいく、例えば昨日もあった中で20周年を

普及させていくみたいなお話があったのですけれども、であれば公共バスに祝20周年みたいなのを貼って、全町内会を回るバスですから、そういう意味で町民に知らせるのはいいのですけれども、何か20周年にかこつけて作るというのかもしれないのです、劣化をしているからということ。

○委員長（伊藤 昇君） ちょっと論点を絞っていただけませんか。

○委員（斉藤優香君） すみません。これを20周年の記念事業として持っていった理由をもう一度お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

繰り返しになるかもしれませんが、やはり既存のキャラクターの劣化という部分はず1つこの数年ございました。こういった節目で作り上げるというのが、まず募集から制作まで、あとは今後キャラクターにどういった活動していただけるのかというのをこういう節目の20周年で行うというのがまず1つございますので、そちらについてはそういった点でご理解いただきたいなと思います。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにまだ何人いらっしゃいますか。

（予定者挙手）

○委員長（伊藤 昇君） 斉藤委員も別件であるのですね。

そうしましたら、ここで3時55分まで休憩させていただきます。

休憩 午後 3時46分

再開 午後 3時55分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○委員（斉藤優香君） 地域おこし協力隊のことでお尋ねします、委託料の中の。

このたび2名の地域おこし協力隊を要請するみたいなのですけれども、この中で1名は特産品のPR支援とか、もう一名は観光ガイド、こうなってくると今まで森町が採用していたような方というよりはやはり専門的な方になってくると思うのです。そうすると、この人選というのは、どういうふうにしていくのか、観光ガイドとなると経験豊富な方、森町だけではなく全国的な観光の経験と言ったら変ですけれども、そういうことがある、まして特産品PRになると、よく森町は町外で物産展とかやるときに町民も知らないようなものとかも売られたりするのですけれども、そういうのってこのPRを町内にもやっていくような形になるのかというところをお願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

今回募集をする予定の地域おこし協力隊につきましては、専門的な知識を有している方が来ていただかないとなかなかできないのかなと思っております。令和6年度については、任用型で募集を随時かけていたのですけれども、任用型ですと応募がなかったと、専門的

にいろいろなことをやられている方を広く募集できるように少し委託型にしたところがございます。今後PR、町内外に向けて取り組んでいきたい、そのように考えております。

○委員（斉藤優香君） 観光と申しましてやはり幅が広くて、これから始まる鷲ノ木の観光ガイドみたいなものとかも入りますでしょうし、あと自然の観光ガイドというか、にもなるでしょうし、町内のとかというのものもあると思うのですが、そういう分野は決まらずに全般的などこでも通用すると言ったらなんですかけれども、今ネイチャーガイドみたいなのはやっているというか、まちおこしとしてすごく取り入れているところも多いと思うのですが、そういう意味でもやってくれる人材を目指しているのかということをもう一度お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

委員おっしゃるとおり、今ボランティアガイドの会にいろいろお願いしている部分というのは観光だけではなくて史跡の部分ですとか、そういったご説明も観光ボランティアの会の皆様にいろいろと対応していただいているところがございますので、幅広い観光分野、そういったものでPRしながら観光振興に努めていただく人材、そういった形で考えております。

以上です。

（「ネイチャーガイド」の声あり）

○商工労働観光課長（白石秀之君） 含めてです。専門性というところは、やはりあるとは思いますが、そういった分野で来られる方がもしあれば、そういった部分も取り入れられるのかなと思っております。

以上です。

○委員（高橋邦雄君） 委託料の公式イメージキャラクターの件なのですが、先ほど課長説明もありましたけれども、商標登録されているのだということで特許庁で商標登録されているものは実際これを森町で使うとなると各登録されている自治体とライセンス契約を結ばなくてはいけないのです。これは、すごく費用もかかることですから、そこも考慮して今回20周年記念ということですが、実際考えていたということで新しいイメージキャラクターを制作していこうということで、町のシンボリックなものを制作することで費用対効果は町のイメージを前面に出していくということでよろしいですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

そのように考えております。町のシンボルとして活動いただけるキャラクター、そういったものを作り上げていきたいと考えております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 何点かあるのですが、まず道の駅リニューアルのほうなのですが、この事業のロジックに関しては先ほど同僚委員からもいろいろありましたので、そこはいいとして、今回これ年6回ということなのですが、6回で300万円弱と、1回50万円弱なのです。そのうち2回は、オンラインというふうに見ました。単純に

回数だけで数えると、随分高額だなというふうに捉えたものですから、この290万円の内訳、人工的なものが幾ら、交通費が幾ら、宿泊費が幾らというものがもしあれば教えていただきたいと。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

今ご質問ございました人工的な部分については、今まだ手元にございませぬので、一応全体通してこの業務を委託する場合の参考の見積りをいただいた上での金額としております。実際に年6回の検討委員会に参加だけではなくて、都度出てきている課題、こういったものにも対応いただけるというようなことをございますので、一応めどとしてはこの回数の会議には必ず参加していただきながら議論深めていきたいと、そのように考えております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 別件に行きます。イメージキャラクターのところなのですが、先ほど商標登録か意匠なのかちょっと詳しくは分からないのですが、今既に森町で観光協会のキャラクターかもしれないけれども、くりたんとさくりんでしたっけ、さくりんが何か引っかかっているというようなお話だったかなと思うのですが、それはデザイン的なものなのですか、それとも名称なのですか、引っかかっているほうは、教えてもらえますか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

名称でございます。

○委員（河野文彦君） 名称だったら、名称変えればいいのか。さくりんではなくて、チェリーのチェリリンでもいいし、名前変えればいいのかと思うのですが、それを結構な経費かけてわざわざ作り直さなければならないというのは名称を変える以上の何かあるのか、そこを説明願えますか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

名称を変えればということもございませぬけれども、この背景にあるのはやはり2体の経年劣化でございます。1体をまず作り直すとしても150万程度かかるということをお聞きしてございまして、今いる既存の2体を新たに修繕、修復するということになると、今回新たに制作する分とそれほど変わらないような形になります。さらに、先ほどの説明にあるとおり、商標登録の部分でそういった問題も抱えているので、今回は1体を新たに作り上げる、そういった考えでございます。

以上です。

○委員（河野文彦君） 続けて質問しようと思っていたところを見事に今答弁でお話ししていただいたのですが、キャラクターが劣化した、物理的に傷んだというようなお話です。なので、新しいものに作り替える、では新しいものに作り替えました、それをまた数年、十数年か分からないけれども、使用して傷んできましたといったら、その傷んだときにその傷んだものを補修なり、作り直すなりしないでまた新たにキャラクターも全部

変えていく、それを繰り返していくということでしょうか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

現時点では、もうちょっと先の話でございますので、それを作り替えていくというようなお答えにはならないかなと思うのですが、最近の新しい着ぐるみでございますけれども、着ぐるみに入る形の今の既存のタイプではなくて、持ち運びも可能な膨らませて着るようなタイプですとか、そういったものもありますので、今後は繰り返し長く使えるような形も考えながら取り入れていきたいと考えております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 今回のキャラクターが傷んでいるから、今回新しくイメージ自体も全て変えるのだというのは、僕は説明としてあまりふさわしくないのかなというふうに思っただけで聞いていたのです。なので、もしこれが予算通って町民にも説明するときには、そういったことは言わないほうがいいのではないかなと思います。それであるならまだ、例えば観光協会のだけでも、今くりたんとさくりん、2ついるので、1つに集約したいとか、そういう話しされたほうがずっといいと思います。ですから、今ずっとしきりにキャラクターの劣化だとか傷んだからというお話しされたのですが、そこは僕今回の事業の目的にするべきではないと思いますけれども、いかがですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

河野委員おっしゃるとおり、少し現実的な部分でご説明させていただきましたが、説明資料にもあるとおり記念して新たなものを作り上げるというような形で説明はしていきたいと思っております。

以上です。

○委員（河野文彦君） 別件で、スポーツ合宿誘致の補助金の件だったのですが、これスタートしたときにどれだけ効果があるのかなんてちょっと心配な部分もあったのですが、実際に結構な方がご利用されて森町に来町していただいているということで事業の成果としては私も耳に入っています。それで、1つ気になったのが、前年までの実績の話になってしまうのかもしれないのですが、合宿で宿泊する施設として一番利用されている場所はどこだったのか、もし1か所に偏っているのであれば、令和7年度でも町内いろんな宿泊施設があるので、こういうところがありますよというところを紹介して幅広く活用もらうというような取組も必要かなと思うのですが、いかがですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、一番多く利用されている施設につきましては、グリーンピア大沼さんでございます。また、ネイパル森、こちらも多く利用されております。また、町内の宿泊施設で宿泊して合宿される場合も対象となりますので、広く宿泊事業者様にはPRしていただけるように取り組んでおります。

以上です。

○委員（松田兼宗君） まず最初に、別なところからいきます。まず、153ページ、委託料

のところなのですが、ロケーションマッチングの業務委託料で16万5,000円、これ前年と同じ予算計上しているのですが、これの実際の、どうなのでしょう、アクセス数は。そして、更新状況がどういふふうになっているのか。これは、商工労働観光課でやっているわけではないですよ。委託して全部更新も含めて、写真撮りも含めて、写真撮りは別に予算計上していますけれども、そう思って判断していますけれども、その辺も含めてどういふふうになっているのか、まずお知らせください。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、アクセス数でございますけれども、3万493件のアクセスが今年度現時点でございます。また、更新につきましては、委託業者のほうで随時ロケーションのほうを更新してございます。

以上です。

○委員（松田兼宗君） それって増えているのですか、減っているのですか。

それと、業者のほうで全部更新しているという言い方しているけれども、こちらのほうで新しいのを発見してこういうのを載せてくださいというのはないのだろうか。全部業者に任せた状態、それも無責任な話だと思うのだけれども、いかがですか、その辺。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、アクセス数については、増加傾向でございます。

また、更新については、業者任せではなくて、こちらからも載せていただきたいロケーションというところを協議しながら載せていただいているというところがございます。また、今年度につきましては、マップと連携しまして飲食店などの情報についても載せていただくように取り組んでおります。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 今飲食店も含めてという話で言っているけれども、そうすると新たに予算的に言うと16万5,000円で大丈夫なのですか。補正組むということになるのだろうか。それも含めた中でこの中に入っているということなのか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） 予算の範囲内で行えるということでございます。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） 別件ですか。

○委員（松田兼宗君） はい。その下の桜樹種同定調査業務委託料88万って、これ今回初めてだと思うのですが、その内容をお願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

こちら新年度予算で計上させていただくのは初めてでございますが、昨年9月の議会で1度まず上げさせていただいてございます。この調査につきましては、オニウシ公園にある、今仮称でございますけれども、オニウシ水晶という珍しい桜が1種類ございまして、そちらを調査したいということで9月にまず文献調査をさせていただいております。まだ正式な報告は来ていないのですけれども、経過の中で全国的にもこの桜はないと、文献的

にはないということでしたので、さらに新年度で遺伝子調査等して、もしかすると森町の固有種、そういった部分があるのかなど。そういったものをはっきり調査させていただきまして、今後町の桜全体含めてPRに使っていきたい、そのように考えております。その調査でございます。

○委員（松田兼宗君） 今その話というのは初めて聞きましたので、それ何種類もあるということ、1種類ということなのですか。それだけ確認をお願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） 本業務で調査している桜は、1種類でございます。

○委員長（伊藤 昇君） 別件で。

○委員（松田兼宗君） はい。その下のデジタルガイドマップ掲載業務委託料の11万、さらにその下のデジタル観光パンフレット制作業務委託料498万2,000円のことなのですが、資料ナンバーでいうと52番です。これの部分なのですが、今作られているので、更新するって話ですよ、観光パンフレットを。それで、この説明見ますと、多言語対応していないからという形で言っているのだけれども、多言語って新しく作るのは多言語対応するわけですよ。それは、どことどの外国語に変換するというか、作るのですか。そういうの何も書いていないのだけれども、それと作るパンフレットの数量、そして単価ってもう決まっている、これから入札になるのでしょうかけれども、大体見込みとしては何部作る予定でいるのですか。

それと、電子書籍の問題なのだけれども、これからそれも全部委託して作るって話なのですよね。そして、電子書籍について作ったのはいいけれども、これで最初に書いているように変化するわけです。そうすれば、情報更新をしていかなければならない、その情報更新というのはどういう形でやっていくのですか。その辺まずお願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、多言語化の言語でございますけれども、日本語、中国語2種類、あと英語、あと韓国語の5か国語に対応するような形でございます。

また、電子書籍の更新の部分につきましては、紙のパンフレットでございますとなかなか更新がなされないということでございますので、ある一定の更新すべき時期が来た際には、やはり電子でございますので、随時できる限り細く更新できるように進めていきたいと、そのように考えております。

また、紙のパンフレットを排除するわけではございませんので、こういった新たな更新を進めていく上で少しまとめて発注していた部分を小まめに更新を重ねた紙のパンフレット、そういったものも考えております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） そうすると、紙のパンフレットというと本当のパンフレット、今よくある森町の冊子になった町会のパンフレットみたいなものではなくて、本当の小さいパンフレットのイメージでいいのだろうか。四つ折りとか三つ折りとかになっている、そういうイメージの紙のパンフレットを作るということ。

そして、電子書籍の更新の件なのだけれども、これサーバーはどこに置いてどこの形で、町にあるサーバーに保存するわけではないですよ。町が持っているホームページ等の電子書籍をそこに置いておくという話ではないのだろうか。その辺お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） ご説明いたします。

まず、今紙のパンフレットについてですけれども、三つ折り、四つ折りの小さいパンフレットではございません。平成22年に作ったA4判の冊子になっているあれを再度更新し、それもデジタル化にしていきたいということでございます。

また、サーバーにつきましては、本業務につきましてはプロポーザルで進めていきたいと考えておりますので、その中での使用の中でどこにサーバーを置くかということも含めて今後の事務の中で進めてまいります。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） 別件。

○委員（松田兼宗君） はい、あります。そしたら、パンフレットの出ている資料ナンバーで53番、道の駅のリニューアル計画アドバイザー業務委託のところなのですが、これ来庁による実施が4回、そしてオンラインによるのが2回って書いているのだけれども、そして派遣3名というのはあっちから来る人のことなのでしょう。多分2回目も2名参加ということは向こう側のほうから来る話だと思うのだけれども、ではそしたらこちらの対応として何名対応するのですか。そして、さらに言うと、全部来庁する必要があるのですか、本当に。調査した結果について議論するわけでしょう。とすれば、オンラインで全部できる話ではないですか。チームズかズームか知らないけれども、だからどっちにしてもそういうシステムがある以上、安く上げるためにはそれを使うべきだと私は思う。だから、この回数というのは、変更したほうがいいのではないですか。オンライン上で会議やれる時代になっているのだから、いろんな形でデジタル化を進めていく意味で、そしてそういうのに職員が慣れる意味において使うべきだと思います、オンライン上で会議をするということに。いかがですか、その辺。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

確かにオンライン上での会議も今回含ませていただいておりますし、その中でオンラインではやり切れない部分というのも当然出てくるのかなと思っております。町としてそのケース、ケースで何人が参加するかというのは、その会議の進み具合によって回数ですとか、出席する課ですとか、そういったものは調整しなければなりませんけれども、対面でいろいろな議論、あとはアドバイス、そういったものをいただく必要というのはあるのかなと考えてございます。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 職員何人参加、答えていないのだけれども、それ答えて、それぞれの会議に何人参加するのですか。対象の課としての人員が、どこの課とどこの課の人間が対応するのですか。それをお願いします。

そして、今の話だと、できない部分があるからって、そしたら逆でしょう、会議の回数は。来るのは2回で、オンラインで会議が4回にすべきなのではないですか。私そう思いますけれども、そんなにそんなに聞くことってあるのですか。

それと併せて、前にも言ったと思うけれども、庁内の関係部署だけの検討会議ですよね。外部の人間を入れない方向でいっているけれども、そしたらここで行われている会議の内容というのは公開すべきだと私は思うのです。公開する気ありますか。その辺お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、参加する職員の人数については、検討する内容についてケースでございますので、どこの担当課が今回一緒になって検討するかですとか、全体でやる場面もございます。ですので、人数については今詳細にお答えすることが、申し訳ございませんが、できません。

また、今回の検討会議の中で先ほどもちょっと、繰り返しになりますけれども、この検討会議の中に町民のワークショップというものも取り入れているので、そういった部分については来ていただく回数の中に組んでございます。ですので、オンラインだけではなくて、来ていただいて町民を含めた外部の声も聞けるような体制、そういったものもつくりたいと思っております。

（「会議の内容」の声あり）

○商工労働観光課長（白石秀之君） 会議の内容の公開については、会議録等は作成しますので、こういった形での公開がいいのかというのは検討してまいります。

以上です。

○委員（松田兼宗君） どういう形で公開するか検討する必要なんてありますか。ホームページ上で公開するだけでしょう。例えば企画で交通会議とかいろいろやったけれども、全部公開しているでしょう。それでいいのではないですか。何を検討するのですか、公開するかどうか。ちょっとその辺妙な話なのだけれども、そして先ほどの説明の中でワークショップやるとかって、どこにもこの説明資料には書いていないです。何回ワークショップやるのか。だから、順番としては、ワークショップを先にやるわけ、それとも庁内の会議をやって、その後ワークショップやるということ、というよりももう報告書が出て、道の駅に関しては、方向性はもう決まっているわけです。その中でどういうふうにするかの話だけの会議をまた集めてやるということなのか。意味が分からないのだけれども、今の説明だと。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

公開の仕方の言葉が少し誤りありました。しっかりとホームページ等で公表できるものについてはしていきたいと考えておりますし、またワークショップも検討会議の中でやっていければという部分で考えておりますので、町民の意見という部分はまだまだお聞きする機会というのはあるのかなと思っておりますので、そういった部分で考えてございます。

以上です。

○委員（河野文彦君） 先ほどの別件で、デジタルパンフレットのところで先ほど同僚委員の中で多言語ということで4か国ご紹介されたのですけれども、今森町ってフィリピンだとか台湾とかのパイプをつなごうとしている中で、フィリピンだと英語が通じるのかな、やっぱりタガログ語でしたっけ、そっちがメインの公用語だと思うのです。今掲載しようとしている中国語が広東語、北京語、何種類かあります、中国でも。台湾の方が見てすつと入るものなのか分からないのですけれども、せっかく今町長がわざわざ現地まで出向いてフィリピンと台湾とこれだけパイプをつくらうと動いているのですから、このパンフレットにもぜひそういったお国の方々がすつと読み込める言語も採用してほしいと思うのですけれども、いかがですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

言語数につきましては、今後はインバウンドも含めて検討していかねばならないのかなと考えてございますが、インバウンド内でも一番使われている言語というところで今設定しております。委員ご指摘の部分につきましては、今後検討してまいりたいと考えております。

○委員（松田兼宗君） 皆さんさっきからやっているイメージキャラクターの件でちょっと元に戻った話をしたいと思っておりますけれども、そもそも観光協会に2つあるのです。そして、皆さんの話聞いたら、砂原のキャラクターの話誰もしないのだけれども、砂原のキャラクターってどういうふうになっているのですか。それまず教えてくださいというのと、著作権がない、なくても問題がない場合があるのです。登録しているところと話というか、伝わっているのですか。森の町がこういう名前を使っているということが要するに分かっていて、それに対してこっちを使うことに対してクレームを入れてきたとあってあるのでしょうか。だから、私に言わせると、商標登録されているからといって使えないって話ではないと思っているのです。実際に私があるものをつくったときにあったのです、実は似たキャラクターのものが、調べてもらったら。だけれども、使いました。地域が限定された中で、全国的に発信する予定はないからなのです。ただ、その中で問題が起きたかというのと、何も起きませんでした。その経験からいうと、何が問題なのだろうというふうに私思わざるを得ない。それと、確かに商標登録はすべきだと思います。そして、観光協会が今回していなかったという不手際がやっぱりあるのだと思います。それに対して当然町が補助金を入れて作った流れがあるわけでしょう。とすれば、その時点でなぜそこまで気がついてやらなかったという問題になってくるわけです。その辺どう考えているのか。

さらに、今回の縫いぐるみというのは、当然登録するという考えでいるのでしょうかけれども、町で登録するのですか、それとも観光協会で作るのですか。どうも観光協会の事業と町の事業が一緒くたになっているのだと私思わざるを得ない。そして、キャラクターでいえば、先ほどでいうと20年たって古くなったからどうするのだから更新するようなこと言っているけれども、更新するなんてことあり得ないでしょう。それをずっと使っていくのではないのですか、キャラクターは。そのためのキャラクター、そこにある森のマーク変

えるのですか。古くなったから、変えるって話ではないでしょう。そこからすると、常に商標登録したら森町の一生というか、森町がある限りそのキャラクターを使うという意味なのだと私は思うのだけれども、いかがですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） 答弁漏れございましたら、お知らせいただければと思います。

まず、旧砂原町のキャラクターでございますけれども、現実的なところを言いますと、今観光協会の2体よりもひどい状態でございますので、それを使うというのはなかなか今後厳しいのかなと思っております。

あとは、さくりんのほうの商標登録している自治体には伝わってはございませんし、クレーム等はいただいておりますが、当町で調べた結果、そういった形で既に登録されているので、今後そういった名前を使っての商品化であったり、そういったものは今後の問題起きる、そういったものは避けていきたいと、そのように考えてございます。そういった他自治体で、繰り返しになるかもしれませんが、登録されているキャラクターを使っても、使えないわけではないということでございますが、何かしら使った場合に問題等起きないように町としてもしっかりと新たに商標登録等したものを作っていきたいと、そのように考えております。

（何事か言う者あり）

○商工労働観光課長（白石秀之君） あと、すみません、もう一点漏れておりました。今回の登録については、町のほうでやろうと思っております。当然観光協会と連携しながらいろんな事業やり取りさせていただいておりますので、今回は森町の新キャラクターということで位置づけております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 独自に商標登録、当然あったほうがいいに決まっているのです。ただ、使う上でどうなのか。観光協会のものでしょうか。観光協会のものの方にその辺の打診、話はしているのですか。どうもしていないのではないかと。町が勝手に20周年があるから、こういうふうにしたいからというだけの話で進めていっているふうにしか聞こえてこないのです。どうも妙な話、だから話が見えない、着ぐるみが古くなったら変えるとか、そういう話ではないでしょう。だから、さっき言ったように、森のマークが古くなったから変えるということ言っているのです。そんなおかしい話ないでしょう。森町の、旧砂原町のキャラクターとして作ったのです。それというのは、ずっと使っていくべき、というのはそれだけ対外的に認知されているからです。今新しいキャラクター作って、それを認知されるまでに何年かかるのですか。それでなくても今回20周年の式典には間に合わないって言っているし、桜まつりなんでもってのほか、全然間に合う話ではない。公開する場が遅れていくのに、それだけ認知されるのに時間かかるのだから、そういうことを考えればキャラクターの作り方の考え方というか、安易に考え過ぎだと私は思うのだけれども、いかがですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

この新キャラクターを制作していくというお話を森観光協会ともお話をさせていただいております。観光協会とは、最近毎月役員の三役含めて事務局、あと商工労働観光課の職員で月1回の打合せ会議といたしますか、定例会のような形で双方でいろいろ考えている事業ですとか、そういったものを持ち寄って協議をしている場がございます。その場でこういう20周年を記念して新キャラクターを制作していきたいということも観光協会のほうにもお伝えしておりますので、そこについては共有させていただいております。

また、この新キャラクターのお披露目でございますけれども、着ぐるみに結構な日数がかかるということで、それをお披露目するのは年度内では厳しいのかなと思っておりますが、10月に予定している新町の式典、そちらにはキャラクターのモチーフといたしますか、そういったものはお披露目できるようなスケジュールで進めていきたい。そういった形で先ほども申したとおり、町のシンボルとして新しいキャラクターを認知していただけるような取組は、町としてもそうでございますし、こういった新しく作ったキャラクターを観光協会にも共有させていただきながら、そういった部分で広めてまいりたい、そのように考えております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） どうも話聞いていると、観光協会の持っているものです、キャラクターというのは。それに対して町が作るから、それを使うなって言っていますよね。違うのですか。今後森のキャラクターというのは、新しく作るものに変えるのだというふうに聞こえてくるのです。著作権持っていないから、それ使っては駄目だという言い方しているわけですから、その辺なのですが、どうも町側がすごく横暴なのではないですか。観光協会との話がそういう話をしているかどうか、さらに観光協会といっても事務局1人しかいない状態です。新たにこの後聞きたいこともあるのだけれども、その辺もあって観光協会自体が機能していないでしょうというのが私の見立てなの。とすれば、補助金出しているだけで、それに対して町側のやろうとしていること全て、観光協会的にやるべきことをそっち側にやってもらっているというか、むしろやらせているというか、そういう認識を私持っているのだけれども、その辺も含めてこのキャラクターというのはどっちが、新しいのを優先して森のキャラクターなのだと、対外的にPRしていった過去のは旧砂原のキャラクターも含めて没にするのだという考えでいいのですか。その辺再度お願いします。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

こちらのキャラクターについては、町で一方向的に考えたものを押しついたりしているようなものではございません。観光協会のキャラクターの現状も観光協会の役員、三役と先ほども申したとおり月1度の定例会を開催してそういった問題点を洗い出しながら解決方法を協議しております。一応連携した形でこのキャラクターの制作については当然お話ししておりますので、町が作ったキャラクターを観光協会が使用することもできますし、ま

た既存のキャラクターの存在自体を全くなくしてしまうというところではございませんので、こういった形で既存のキャラクターを引退ですとか、卒業ですとか、そういった感じで進めていくのかというのは今後は話し合っていかなければならないのかなと思っておりますが、当然ですけれども、新しいキャラクターをもってして今後のPRにつなげていきたいと考えております。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） 別件で。

○委員（松田兼宗君） はい。使用料及び賃借料のところのウェブサーバー使用料75万7,000円、これというのは観光協会のサーバーのこと言っているのだろうか。町ではないですよ、別にこちらで持つ話ではないですから。その辺確認まずお願いします。

○委員長（伊藤 昇君） 暫時休憩します。

休憩 午後 4時38分

再開 午後 4時38分

○委員長（伊藤 昇君） 休憩前に引き続き会議を再開します。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

このサーバーの使用料でございますけれども、悠悠北海道という、森町のページを委託しまして、多言語のウェブページでございます。サーバーについては、日本、中国、台湾、あと韓国、そういったところに設置してインバウンド対策用のこういう森町紹介ページをつくってございます。

以上です。

○委員（松田兼宗君） そうだとすれば、多言語で北海道でまとめているやつでしょう。とすれば、その情報の更新というのは誰がどうやってやっているのか、町がやっているのですか。商工観光でやっているということなのか。森町の情報を提供しないと変えられないですよ、道のほうで。それは、どういうふうな情報流れているのか、さらに多言語化されたものが提供されているとすれば、先ほどのデジタルパンフレット作ることとの兼ね合いとか、整合性をどうやって取るのかという問題も出てくるのだと思うのです。その辺どう考えているのでしょうか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

こちらのページの内容については、当然当町で商工労働観光課で確認しております。作っているのは、業者のほうで内容については作っておるのが現状でございます。

また、今後デジタルパンフレットの整合性でございますけれども、こちらでも多言語化していきますので、そういったところの整合性は随時考えていきたい、そのように考えております。

○委員（松田兼宗君） すみません、長くなって。もう一点、最後にまちおこし協力隊の

ことについて聞きたいのですが、資料ナンバーで55番ですが、今回の2名募集しようとしているのは観光絡みの部分が多いです。そして、これ町職員になるのだけれども、1つ聞きたいのはもし見つかって採用した場合に観光協会にてこ入れを考えているのでしょうか。というのは、前に観光協会事務局長がいたのです。観光協会事務局長がいろいろ仕事をしていてやっていたというのがあるのですが、今の職員1名というのはそういう役職ではないです。今後協力隊が入った場合にそれも併せてポスト的に、当然観光協会の補助金を以前、事務局長の分の給料も含めて出していたわけですから、そういうことも含めて考えているのでしょうか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、今回の地域おこし協力隊の2名につきましては、雇用型ではなく委託型でございますので、雇用して会計年度任用職員等ではない、また観光協会との関係でございますけれども、観光協会とは全く別でございます。ただ、やっていく内容については、共通している部分もございますので、そこは連携しながら町の観光振興、PR等に努めていただくような形で業務を行っていただきたいと、そのように考えております。

以上です。

○委員（松田兼宗君） 要するに2人がもし見つかったら、いずれ何年か後にいれなくなるわけ、別な職を見つけるって話になるわけですから、とすれば流れる的に言うと観光協会含めてそういうような部分で仕事に就いてもらえればいいのではないのと私は思っていたのです、これ見ていて。そういうようなこと全く考えていなくて、将来的にもう少しやっていく上でそういうことを考慮すべきだと私は思うのですけれども、最後にその部分どう考えているのか聞いて終わります。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

今後は、任期終わった後は町の観光産業に勤めていただきたい、その中で観光協会との関係性というのもつくりながら、町内の観光産業に従事、または起業していただきたい、そのように考えてございます。

以上です。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 次に、154、155ページ下段から156、157ページ中段、目3ふるさと応援対策費、質疑ありますか。

○委員（河野文彦君） ちょっと確認させてほしい。歳入で今期は、当初予算として10億円のふるさと納税を見込んでいるということなのですかけれども、ここでいくと基金の積立金が4億円です。残りが経費だとして、そうなると50%ルール以上の経費になるのです。だから、4億900万だから、残り9,000万ぐらいですか、そのルールには入らない経費があるということでもいいのですか。僕見た感じ、例えば報償費、通信運搬費、あと代行業務委託料、この辺はがっちり経費に算入、計算していなければならないものなのかなと思うの

ですけれども、これだけでもう50%いつているのです。その辺のからくりというか、説明願えますか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

まず、ふるさと納税10億円で歳入のほう計上してございますが、積立金の額含めまして、この中には経費外のものも当然含まれております。当然総務省で示している50%のルール、そういったものにはしっかりと対応できるような形でございまして、この中で経費外の部分を今抽出するのがちょっと難しいところもございまして、まずルールに沿った形で間違いなく寄附の50%以内の経費で抑えているというのは実態でございまして。

以上です。

○委員（河野文彦君） ということは、私先ほど言った報償費、通信費、代行委託料の中にも50%の経費として含まれないものも入っているということですよね。というのは、僕すごく心配なのです。なぜかという、森町って過去にペナルティーをいただいてしまったという大変不名誉なことがあるのです。なので、そこは慎重にやってほしい、慎重にやっつての予算だとは思いますが、もし後でいいので、その辺この予算書に従ってこのうちこの部分は経費算入として除外して計算していいものですよというような内訳を頂けたらと思いますけれども、よろしいですか。

○商工労働観光課長（白石秀之君） お答えいたします。

後ほど詳細な資料についてはお示ししたいと思います。また、ペナルティー等のないように努めては今後もまいりますので、よろしく願いいたします。

○委員長（伊藤 昇君） ほかにございますでしょうか。よろしいですか。

（「なし」の声多数あり）

◎延会の議決

○委員長（伊藤 昇君） そうしましたら、お諮りします。

本日の会議はこの程度にとどめ、延会したいと思います。ご異議ありませんか。

（「異議なし」の声多数あり）

○委員長（伊藤 昇君） 異議なしと認めます。

本日はこれで延会することに決定しました。

◎延会の宣告

○委員長（伊藤 昇君） 本日はこれで延会します。

次回は、3月10日午前10時開会とします。

お疲れさまでした。

延会 午後 4時48分